

2010年度

授業改善推進プラン

町田市立本町田中学校

## はじめに

「先生、〇〇の勉強、どうしたらいいか教えてください。」

7月20日、1学期の通知表を受け取り、何人もの生徒が職員室に寄って行きました。

3年1組の生徒たちは、授業中とても静かです。ノートもきちんと書こうとします。提出物もきちんと出す生徒がほとんどです。また、出題範囲が広くない定期考査ではよい点をとります。ですから、教科の観点別評価はよく、評定（内申）も高い傾向にあります。

しかし、いわゆる試験勉強ができないくらい出題範囲が広い学力検査では結果が振るわない生徒が多数です。「平成22年度全国学力・学習状況調査」の分析を参照してみてください。

2年1組は究極の少人数学習指導で、個に応じた指導にならざるを得ません。他に1名の学級はまずありませんので、授業もその計画も特別なものになります。

3年3組は特別支援学級です。1学期末現在では落ち着かない状況にありました。まず3組の生徒全員が安心して生活できるように全校体制で取り組んでいきたいと思っています。

この冊子は、「授業改善推進プラン」ですから、教科の授業の改善点などを中心に記します。しかし、学力の定着・伸長のためには、授業の改善だけでは不十分です。

例えば、本校生徒の課題の一つとして、家庭学習時間が少ないということがあります。学校としては、宿題を出したりテストを増やしたりして家庭学習をせざるを得ない状況をつくることはできますが、最終的にやるかどうかは本人及び家庭にお任せするしかありません。

本校は「学校全体の取り組み」と「各教科の授業改善」を行い、よりよい授業を目指して取り組んでまいります。本校最後の生徒一人一人の学力の定着と向上のために、家庭・地域等のご理解とご支援についてもよろしくお願いいたします。

2010年9月1日

校長 板垣 仁

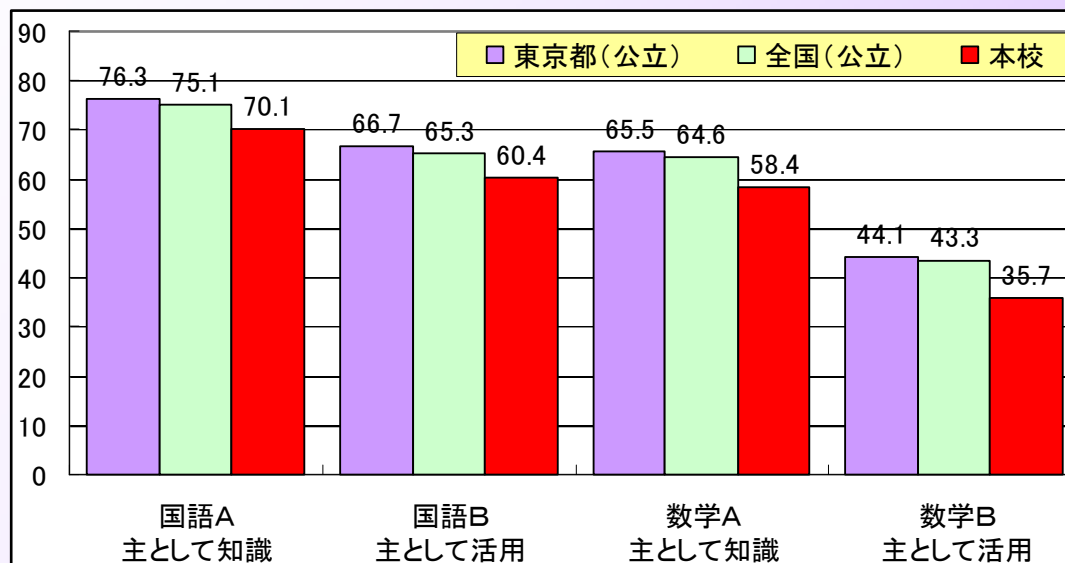
## はじめに

校長 板垣 仁

|     |   |    |
|-----|---|----|
| I   | 「平成22年度全国学力・学習状況調査」の結果分析・・・・・・・・・・                                | 1  |
| II  | 平成21年度（東京都）児童・生徒の学力向上を図るための調査<br>「中学校における学習に関する意識調査」の分析・・・・・・・・・・ | 9  |
| III | 「生徒授業アンケート」の分析・・・・・・・・・・  | 11 |
| IV  | 学校全体の取り組み・・・・・・・・・・   | 16 |
| V   | 各教科の授業改善推進プラン・・・・・・・・・・   | 17 |
| 1   | 国語科・・・・・・・・・・   | 17 |
| 2   | 社会科・・・・・・・・・・   | 19 |
| 3   | 数学科・・・・・・・・・・   | 21 |
| 4   | 理科・・・・・・・・・・  | 23 |
| 5   | 英語・・・・・・・・・・  | 25 |
| 6   | 音楽科・・・・・・・・・・   | 27 |
| 7   | 美術科・・・・・・・・・・   | 28 |
| 8   | 保健体育・・・・・・・・・・  | 30 |
| 9   | 技術家庭科【技術】・・・  | 32 |
| 10  | 技術家庭科【家庭】・・・  | 34 |

## I 「平成 22 年度全国学力・学習状況調査」の結果分析

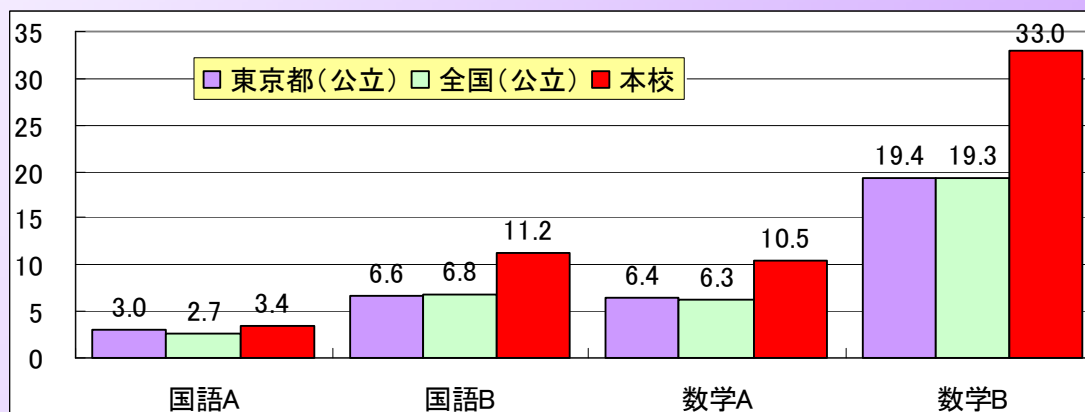
### 1 平均正答率



すべての調査の平均正答率が、全国及び東京都を下回った。

東京都との比較において、国語Aは 0.92、国語Bは 0.91、数学Aは 0.89、数学Bは 0.81 という結果であった。4つの調査の中では、数学の「活用」に関して最も課題が大きいと言える。

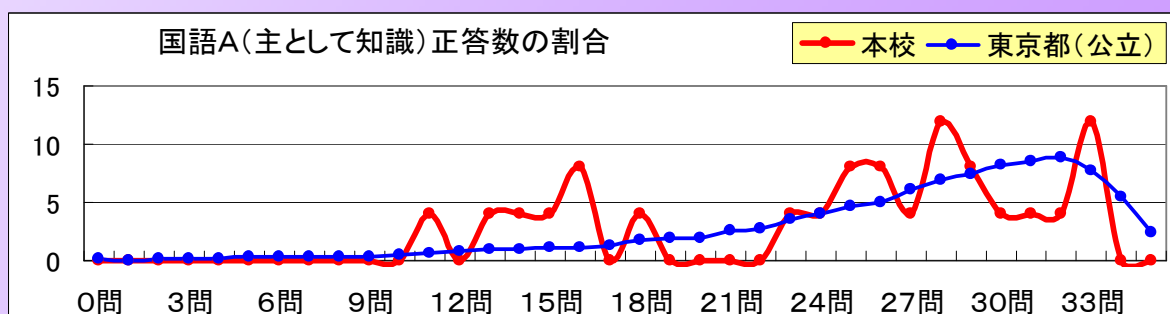
### 2 無解答率

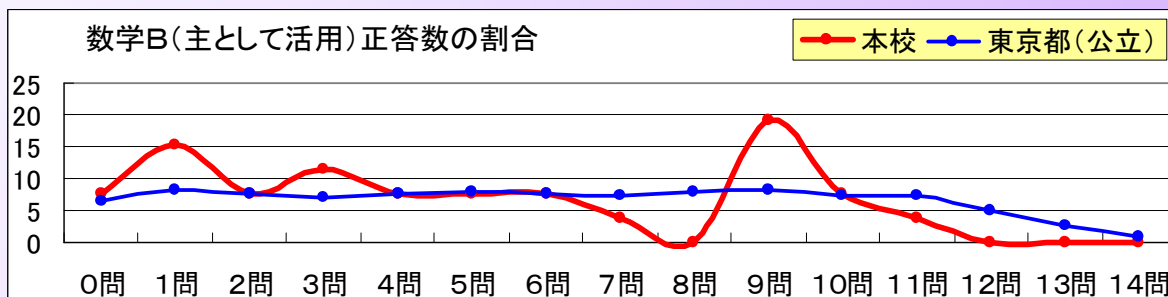
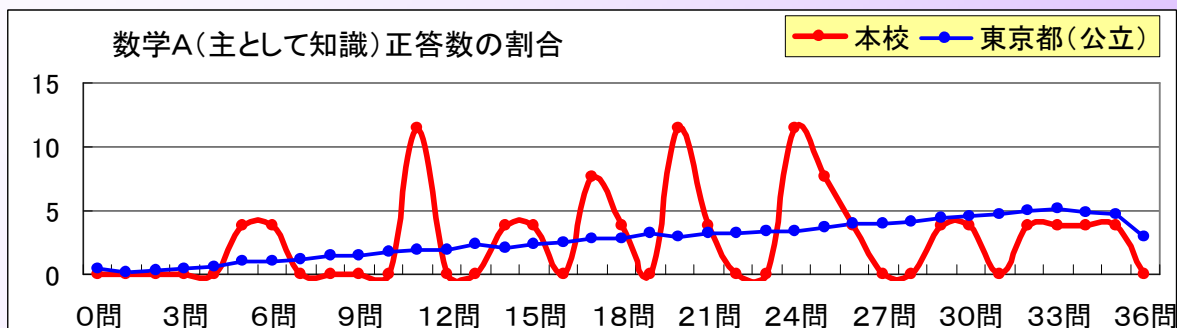
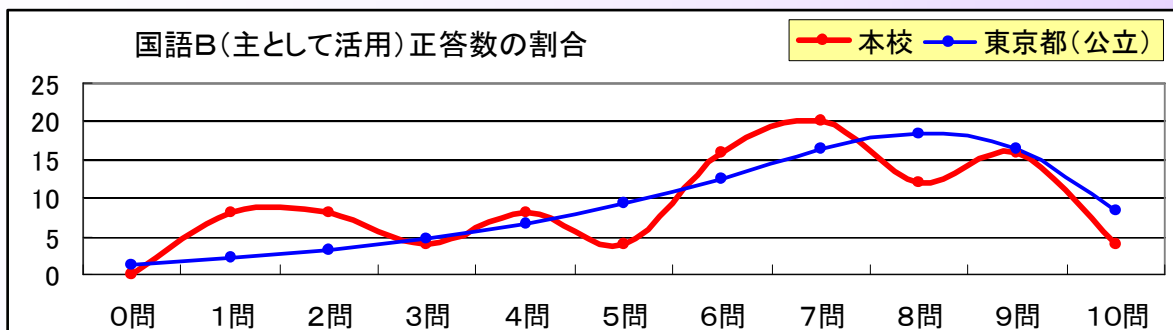


無解答の割合が高い。これが本校の最大の課題であろう。

東京都との比較において、国語Aは 1.13、国語Bは 1.70、数学Aは 1.64、数学Bは 1.70 という結果であった。特にB（活用）で著しい。

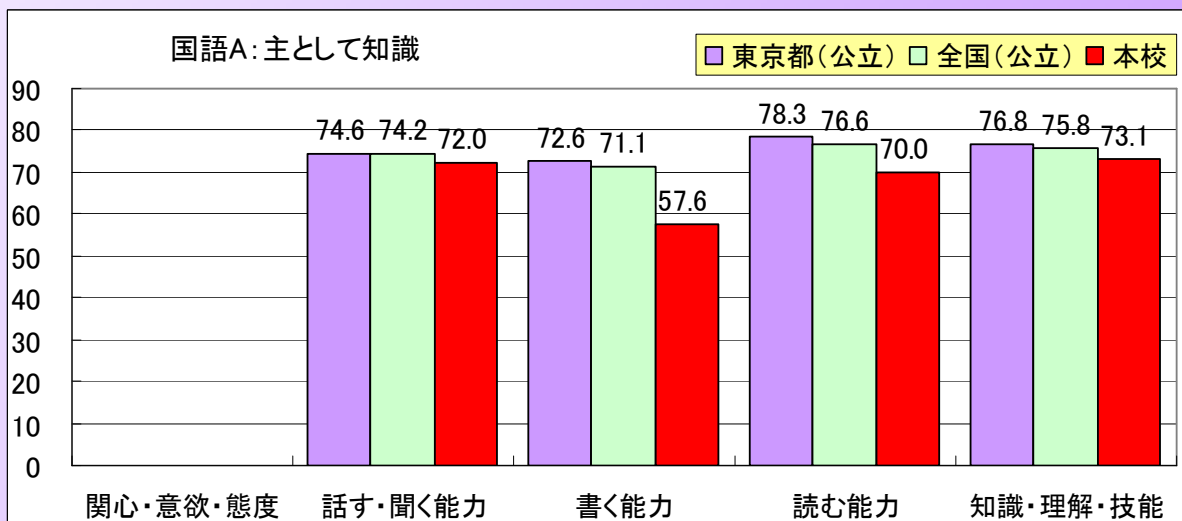
### 3 正答数の割合





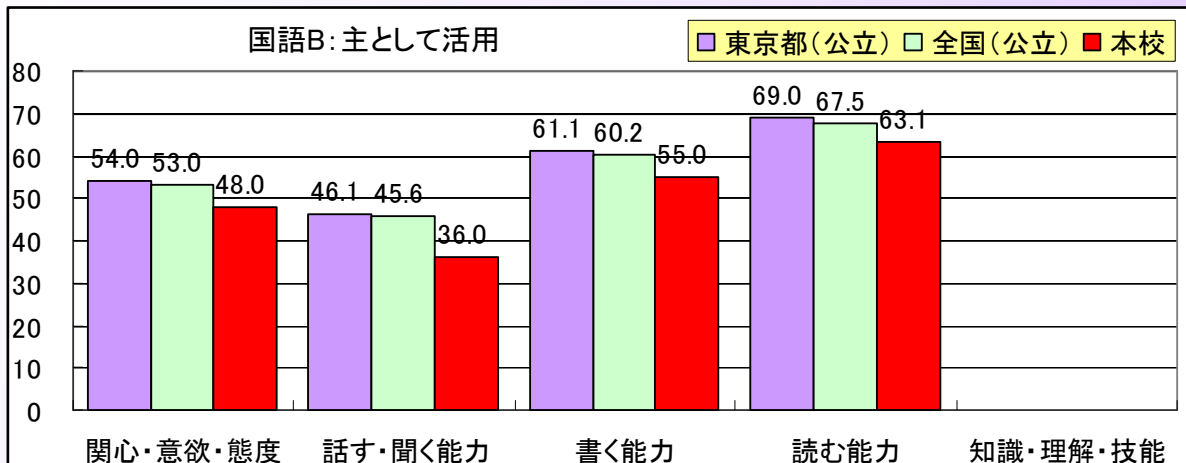
本校は生徒数が少ないため、1人で4%の差異が生じ、グラフには凹凸が出やすい。東京都との比較において、上位者の割合が低く、下位者の割合が高いことが分かる。

#### 4 国語A (主として知識) 分類・区分別集計結果

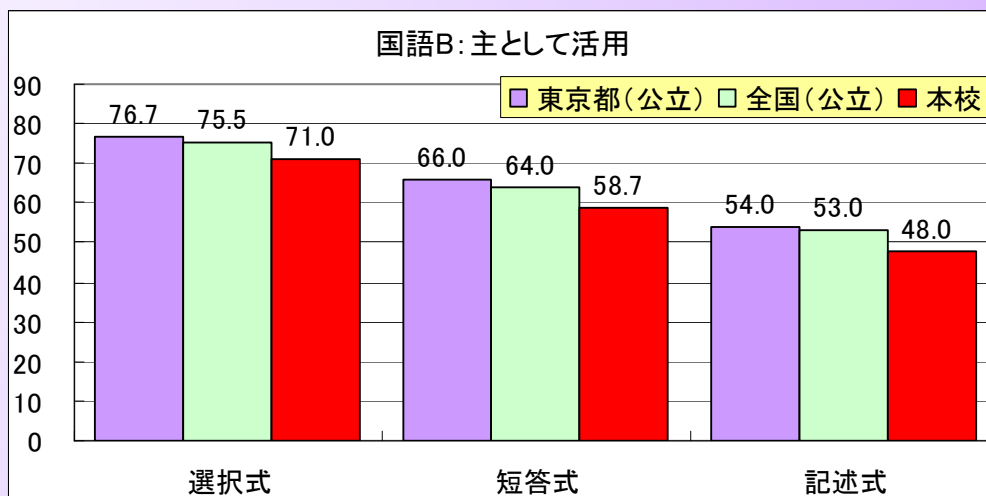


「関心・意欲・態度」に関する設問はなかった。東京都との比較において、「話す・聞く能力」は0.92、「書く能力」は0.79、「読む能力」は0.89、「知識・理解・技能」は0.85であった。「書く能力」に関して最も課題が大きいと言える。

5 国語 B (主として活用) 分類・区分別集計結果

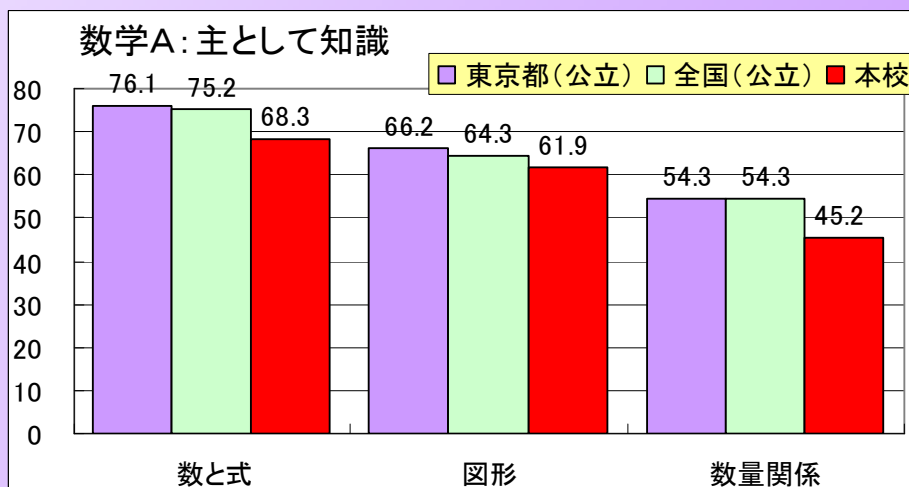


国語 B では、「知識・理解・技能」に関する設問はなかった。東京都との比較において、「関心・意欲・態度」は 0.89、「話す・聞く能力」は 0.78、「書く能力」は 0.90、「読む能力」は 0.91 であった。国語の活用については、「話す・聞く能力」の課題が大きいと言える。



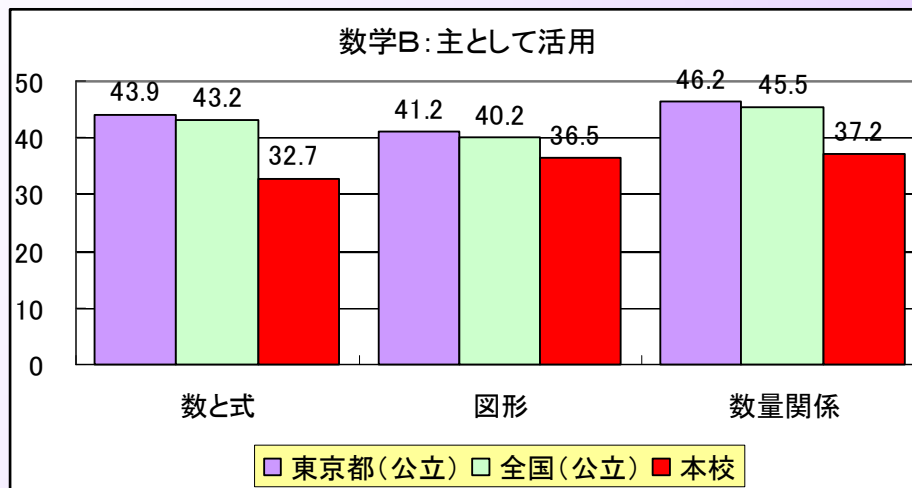
東京都との比較において、「選択式」は 0.93、「短答式」は 0.89、「記述式」は 0.89 であった。どの形式も全国及び東京都を下回るが、大きな差異はなかった。

6 数学 A (主として知識) 分類・区分別集計結果

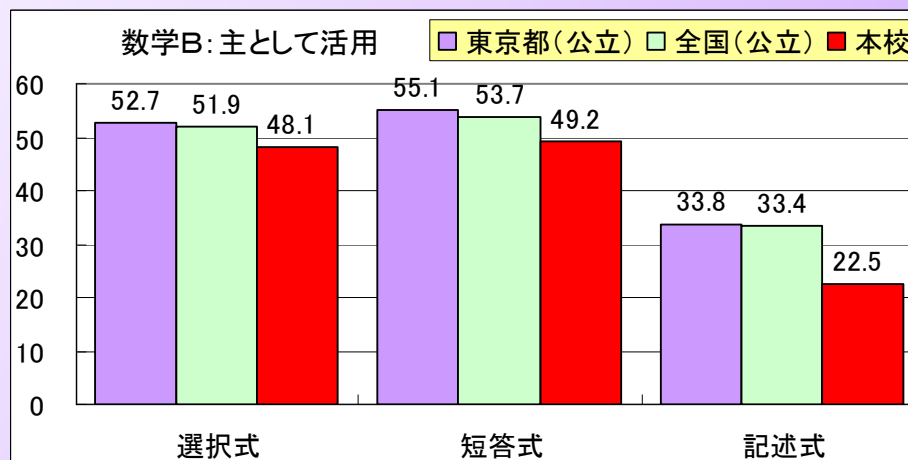


3領域すべてにおいて全国及び東京都を下回った。  
 東京都との比較において、「数と式」は0.90、「図形」は0.94、「数量関係」は0.83で、数学の「知識」については、「数量関係」の課題が最も大きいと言える。

7 数学B（主として活用）分類・区分別集計結果

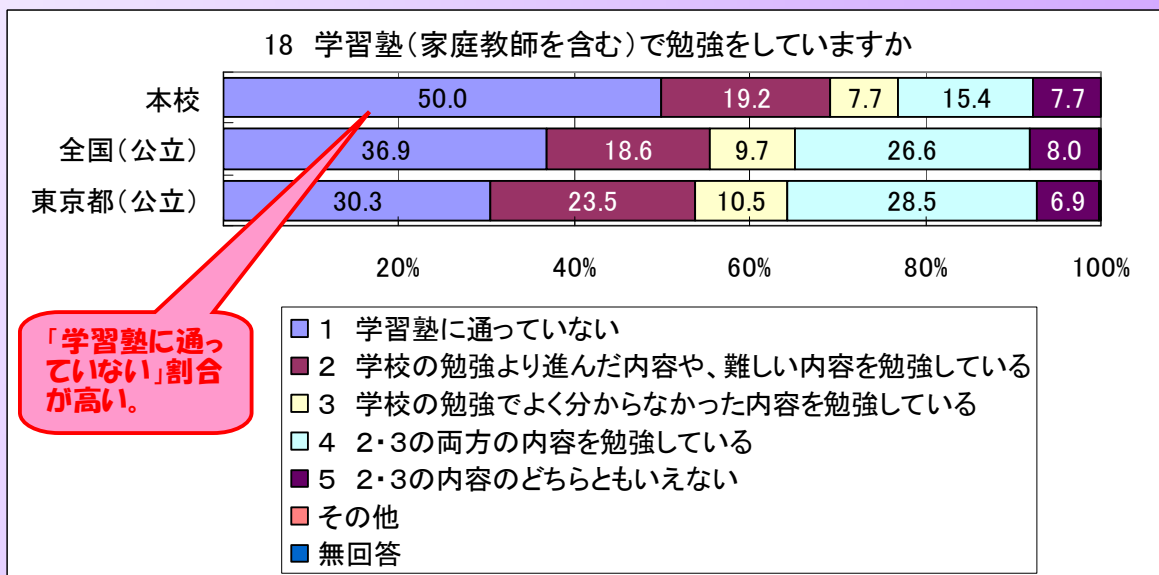
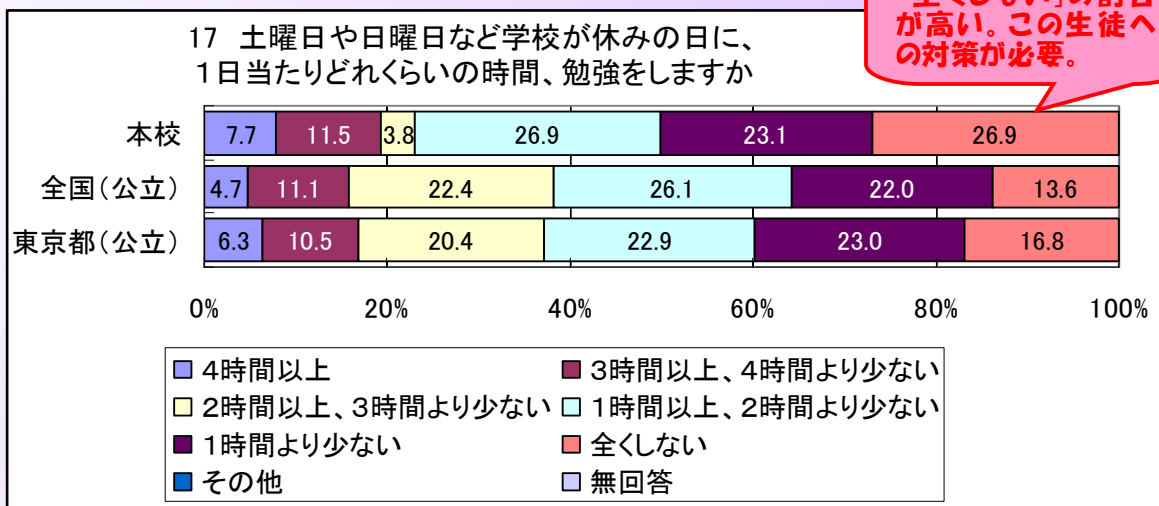
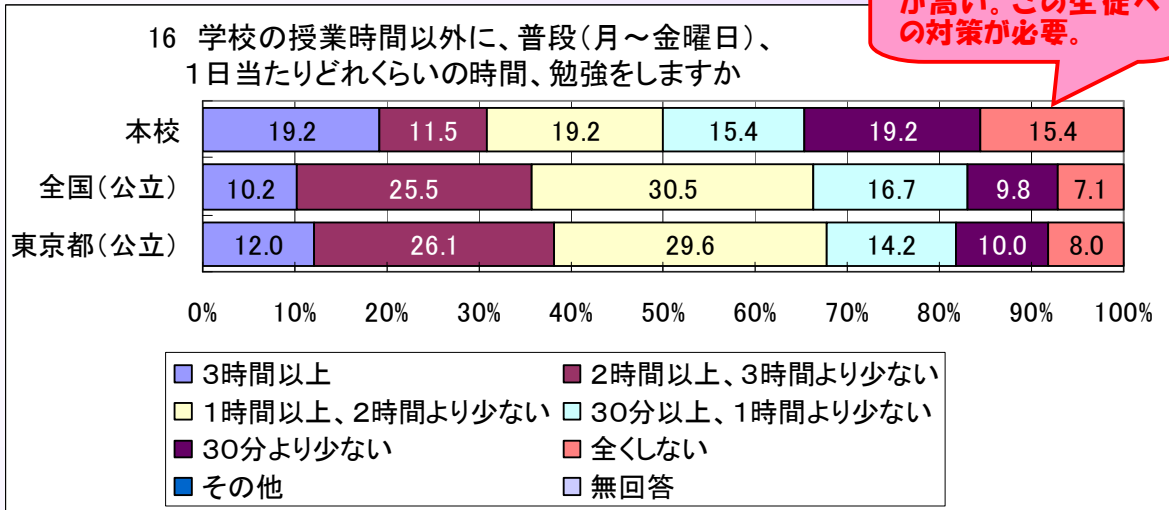


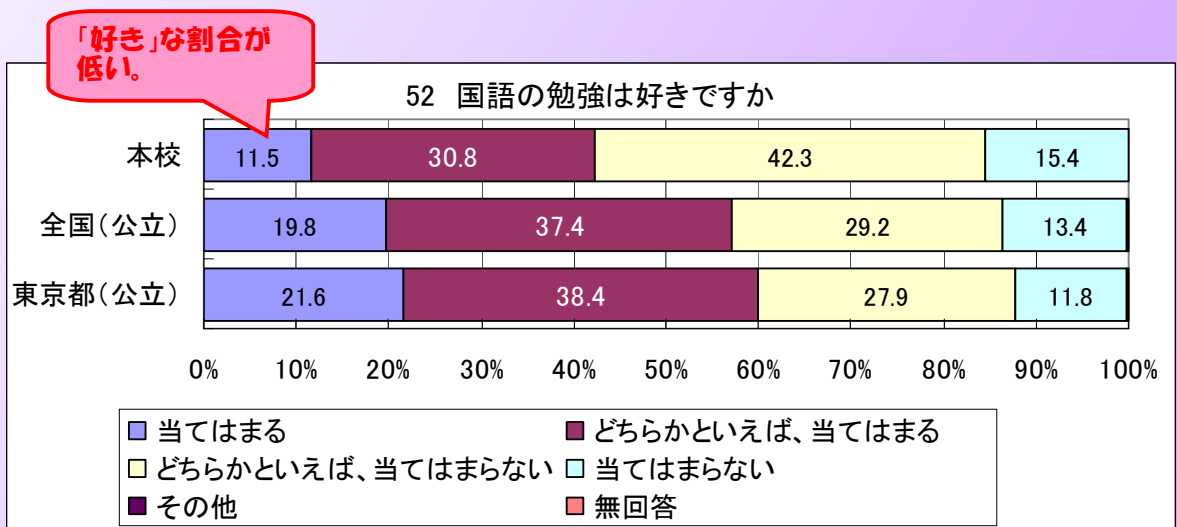
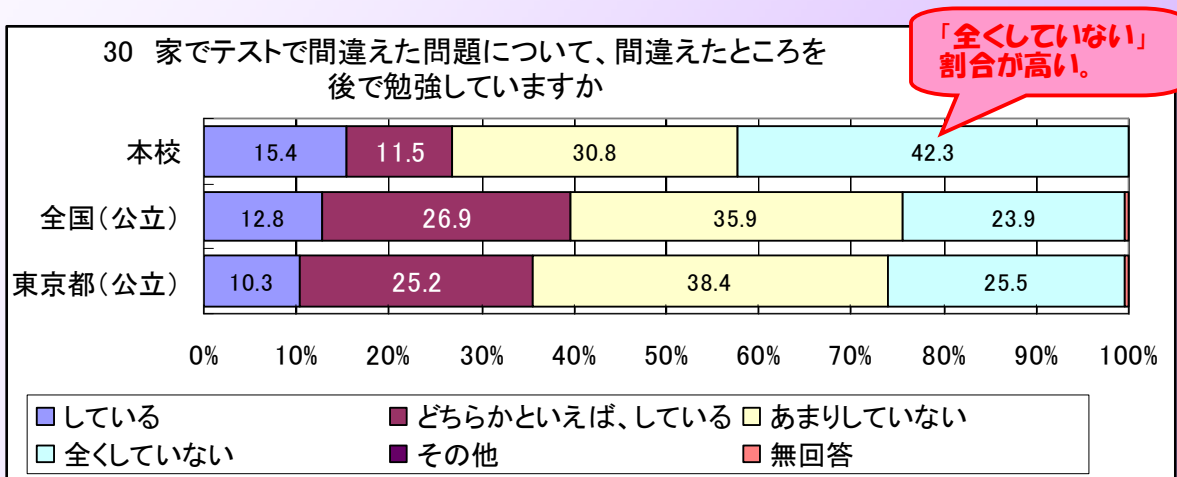
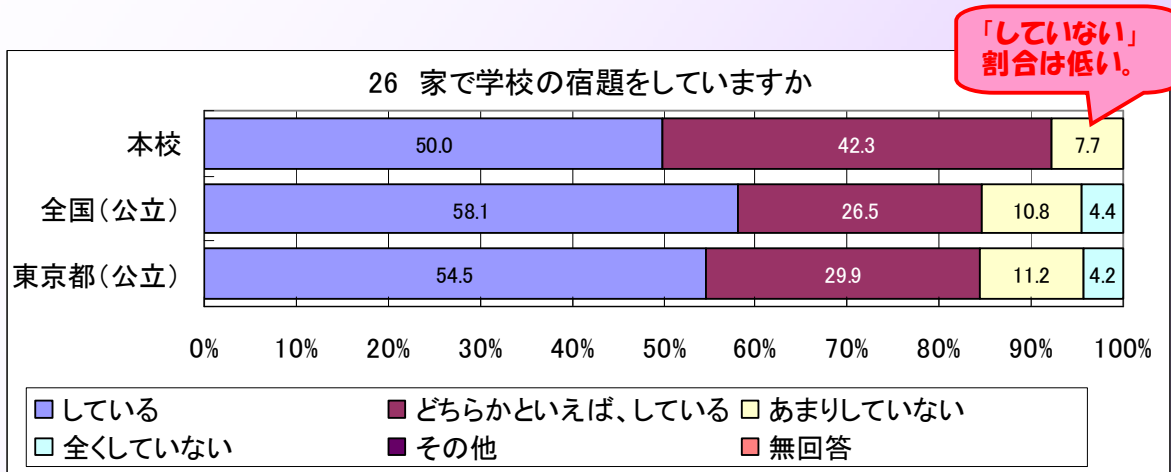
3領域すべてにおいて全国及び東京都を下回った。  
 東京都との比較において、「数と式」は0.74、「図形」は0.89、「数量関係」は0.80で、数学の「活用」については、「数と式」の課題が最も大きいと言える。



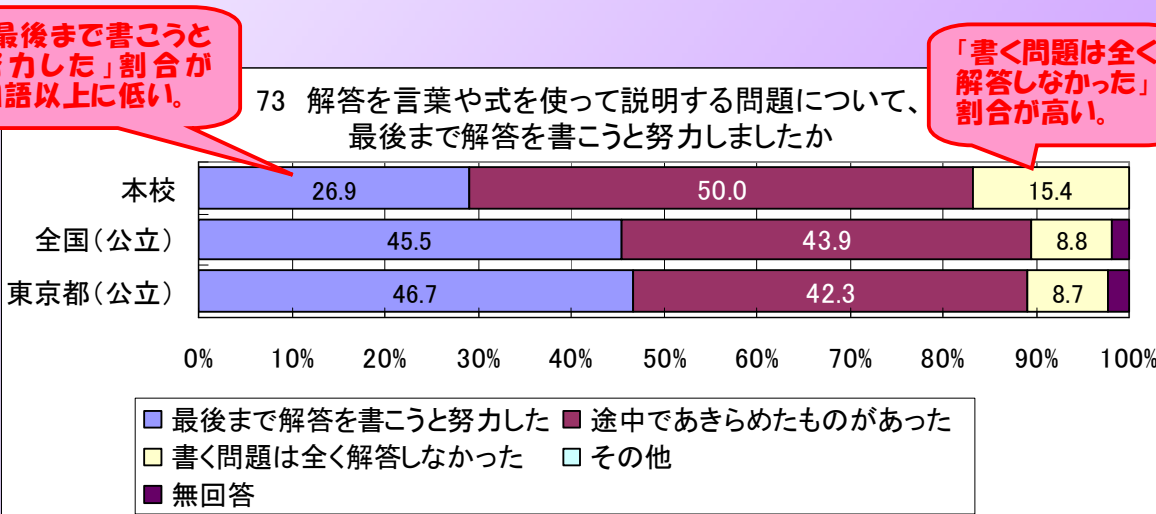
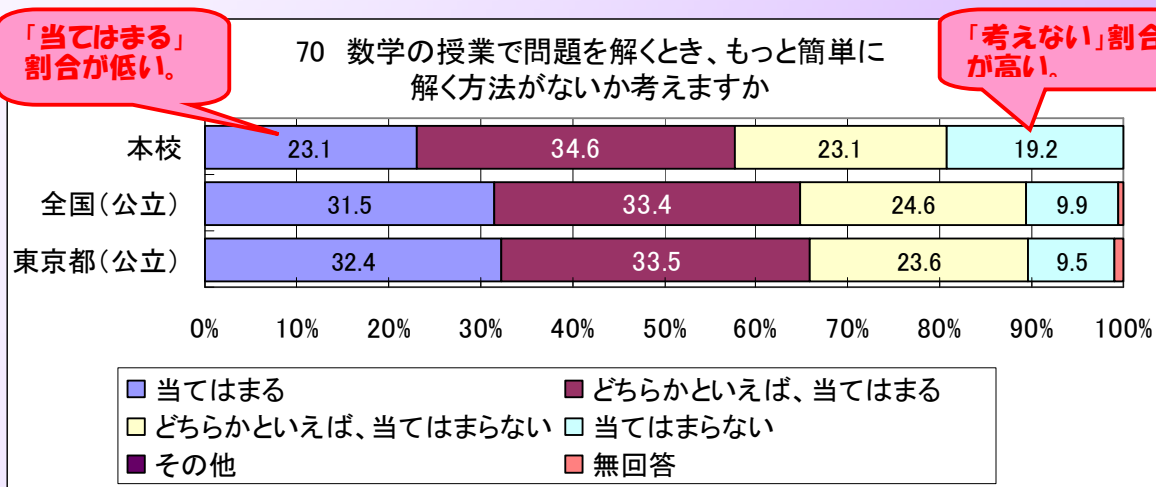
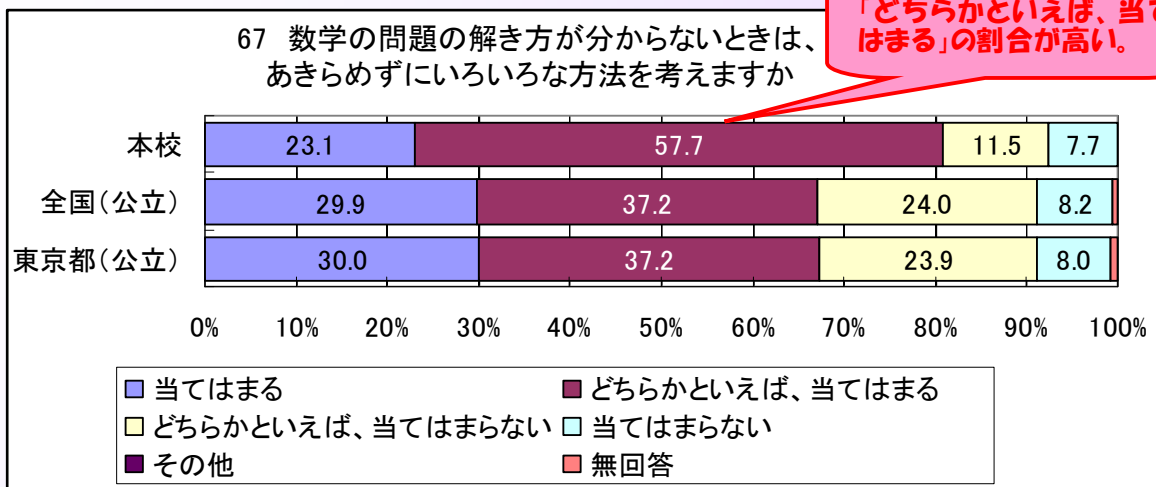
東京都との比較において、「選択式」は0.91、「短答式」は0.89、「記述式」は0.67であり、すべての項目の中で数学の活用の「記述式」の差異が大きかった。

8 生徒質問紙（抜粋）



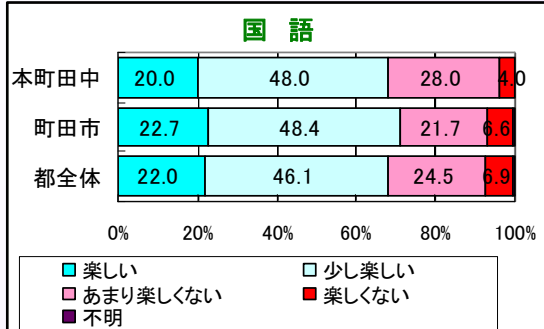




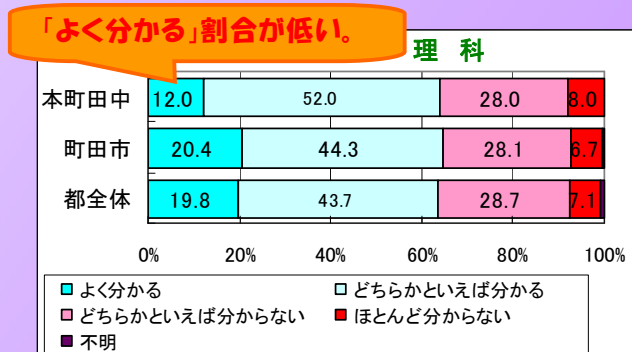
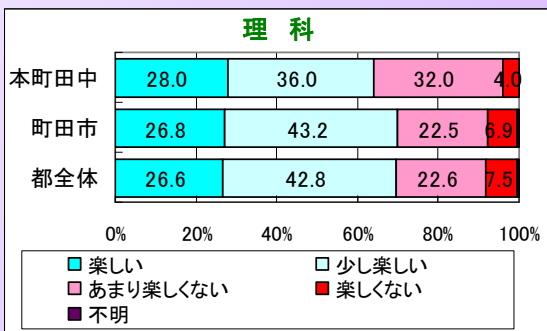
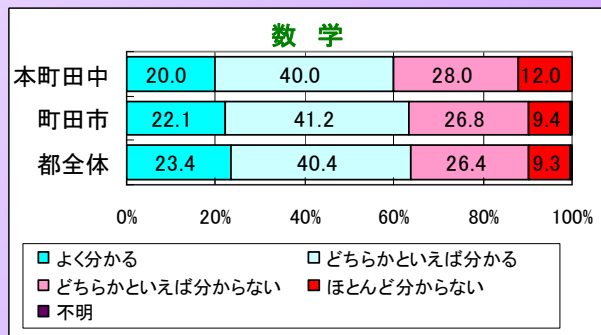
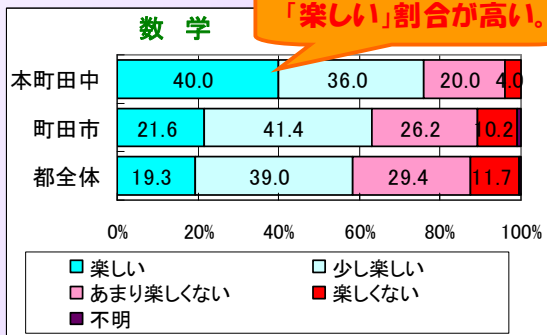
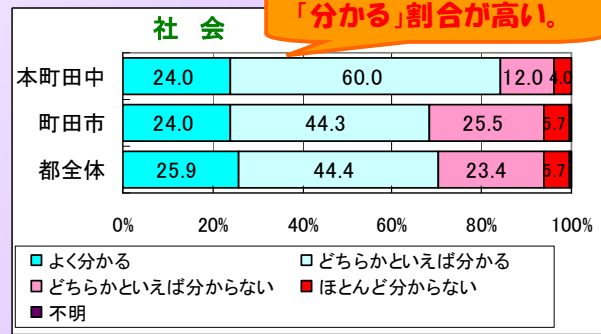
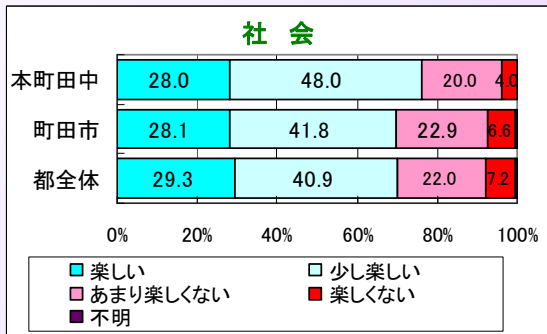
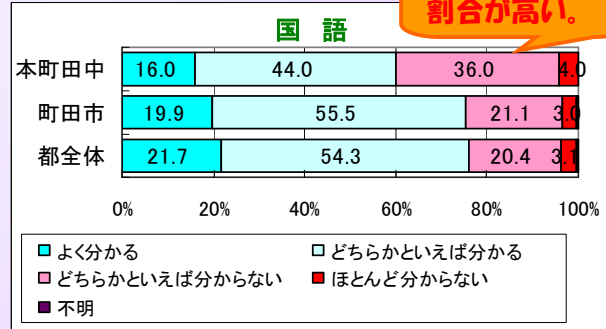


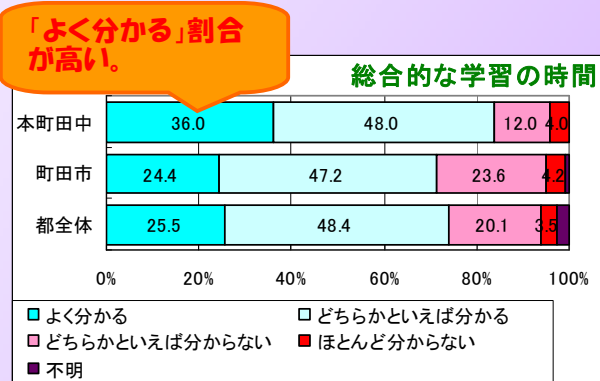
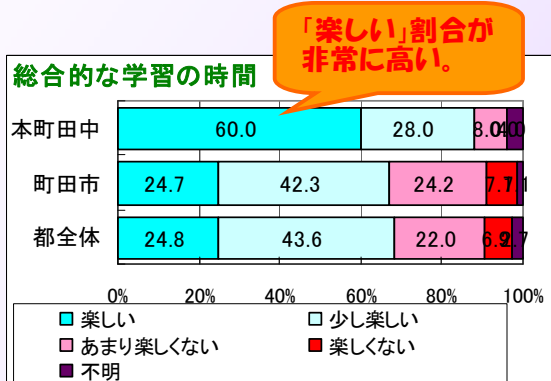
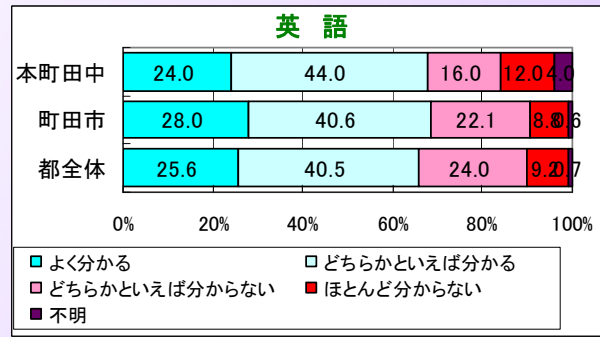
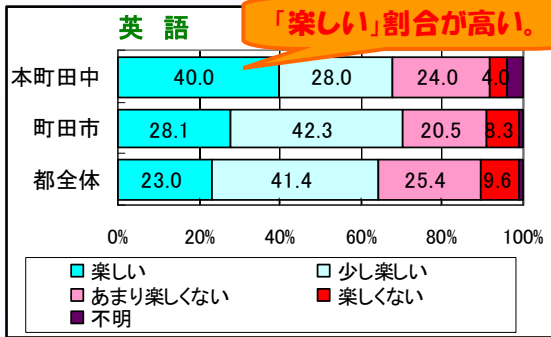
## Ⅱ 平成 21 年度(東京都)児童・生徒の学力向上を図るための調査 「中学校における学習に関する意識調査」の分析

### 1 授業は楽しいですか。

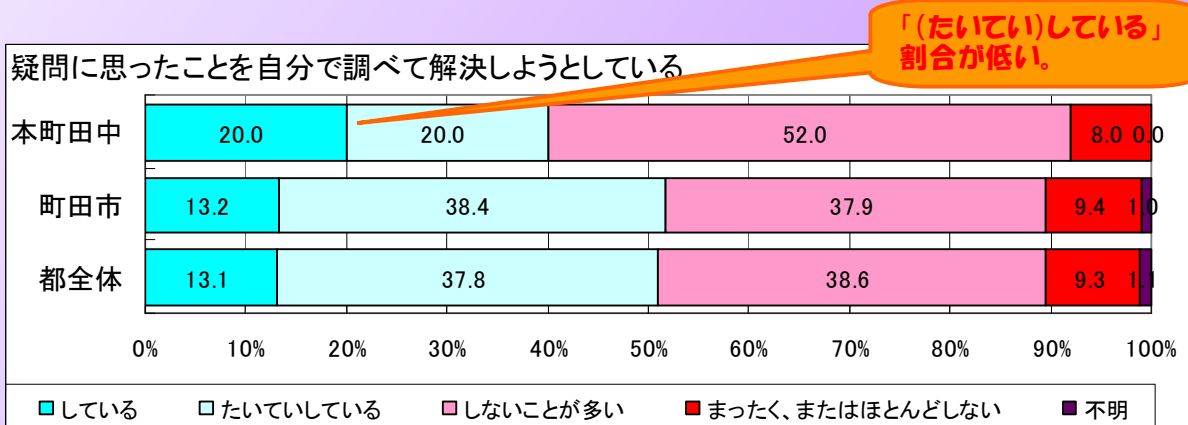
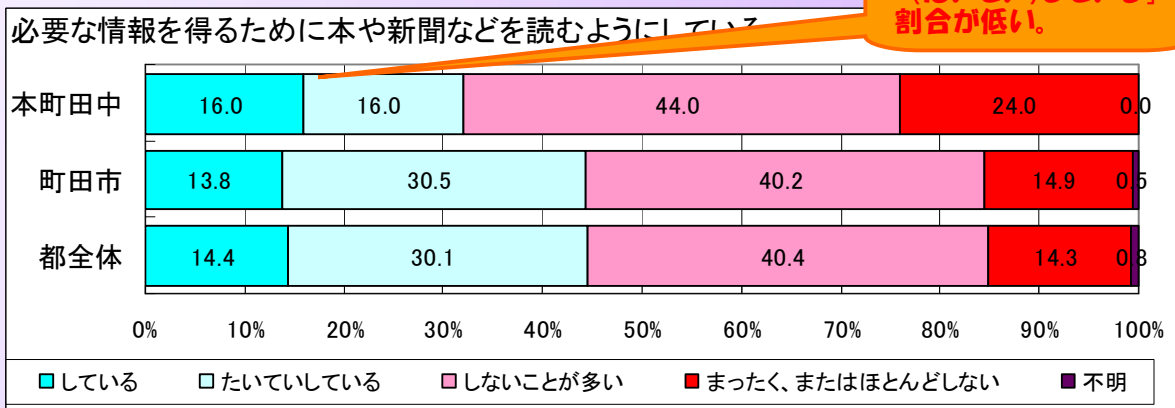


### 2 授業の内容はどのくらい分かりますか。

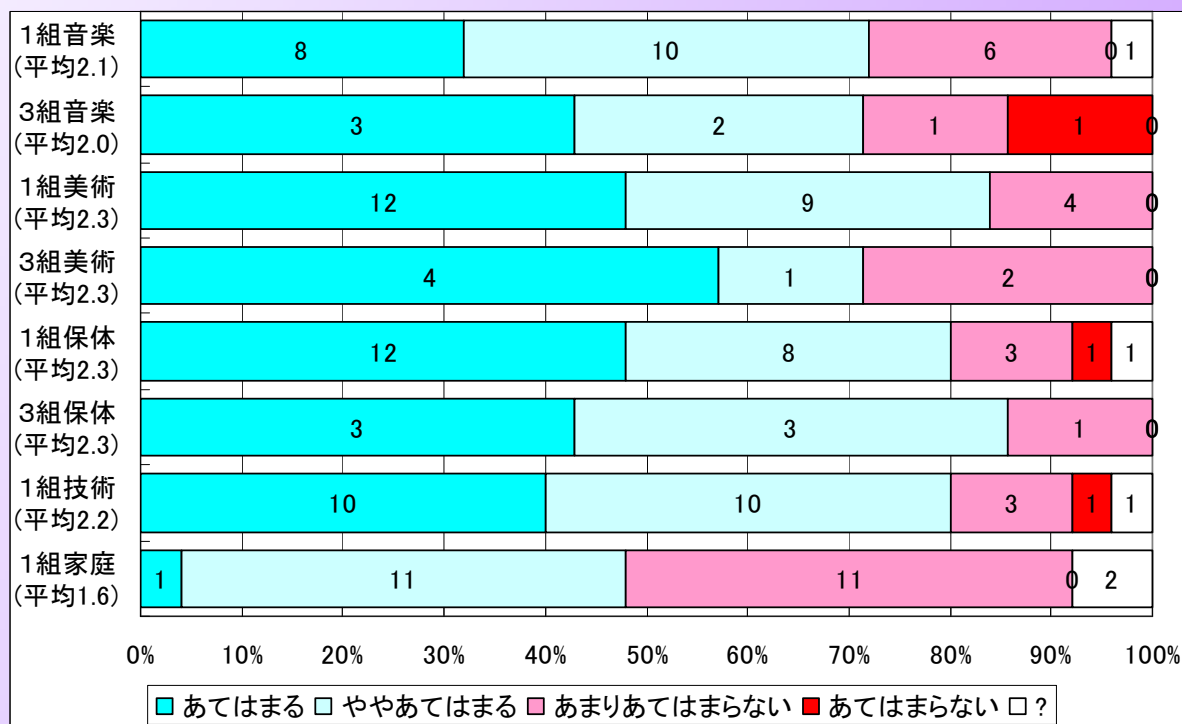
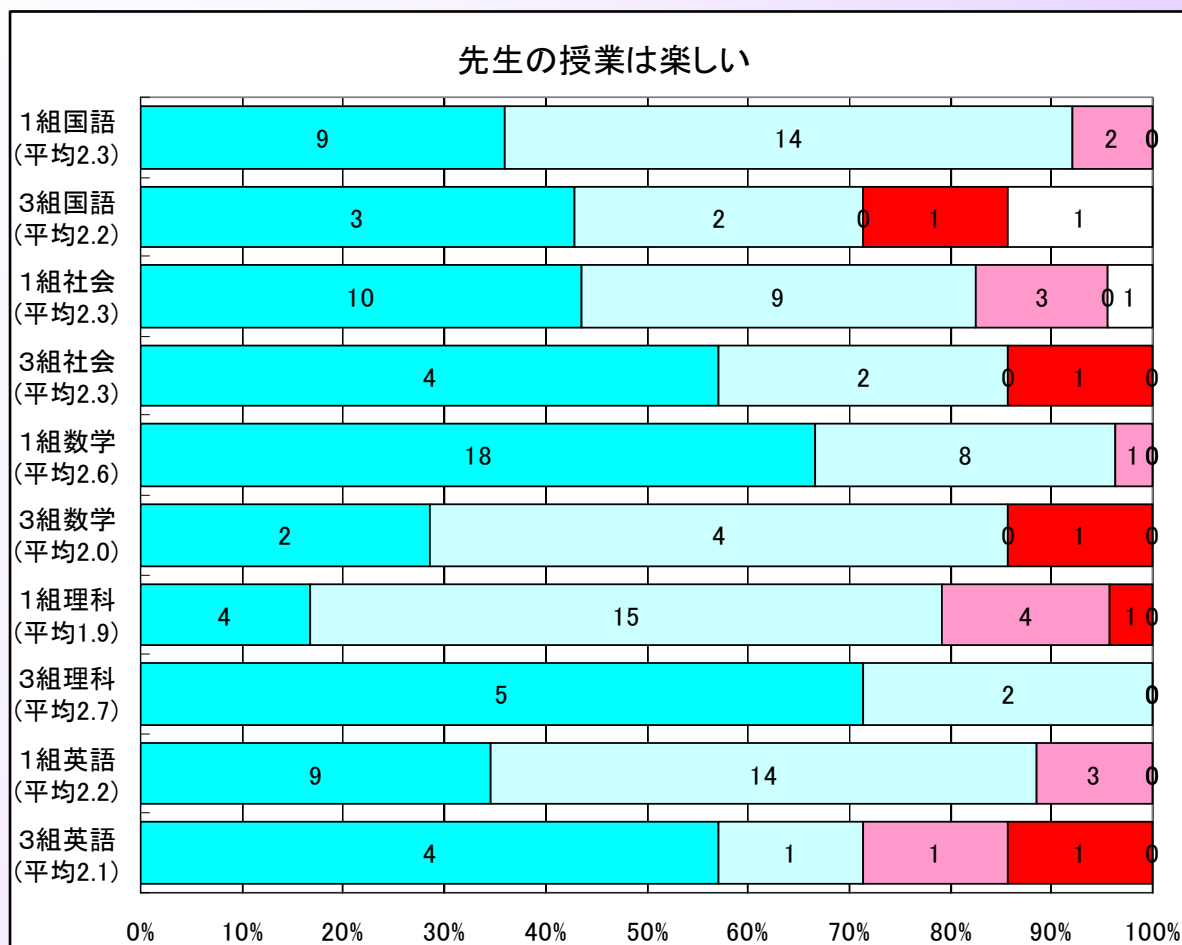




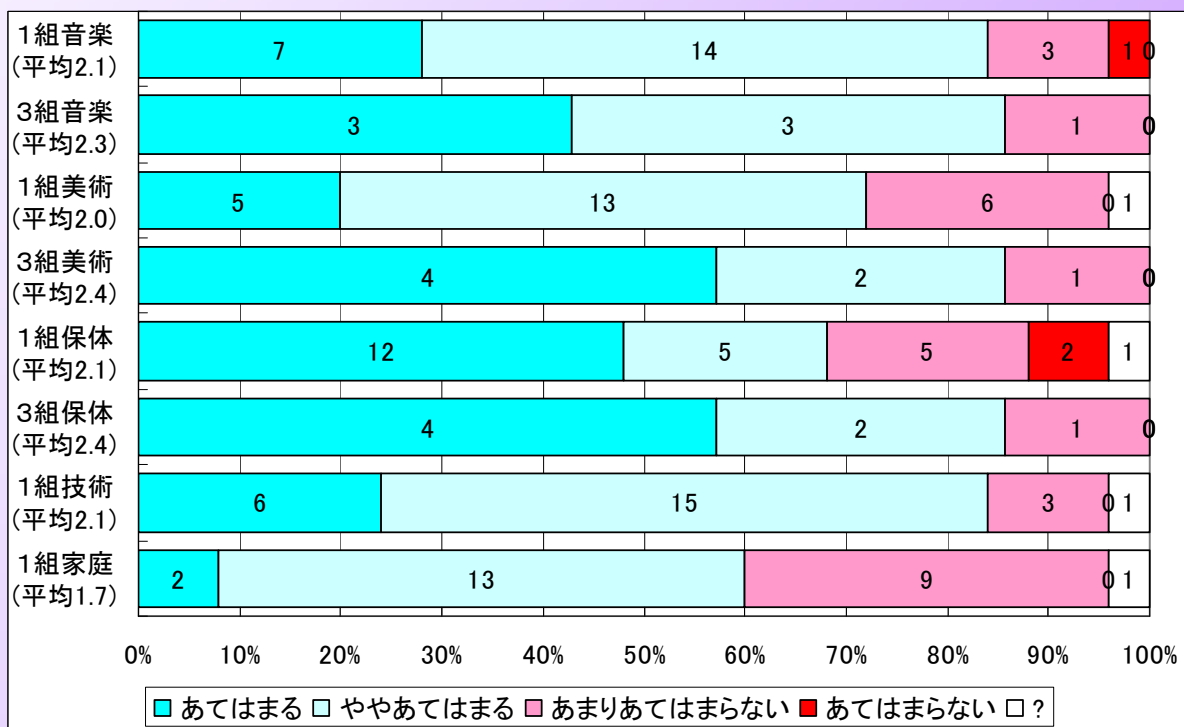
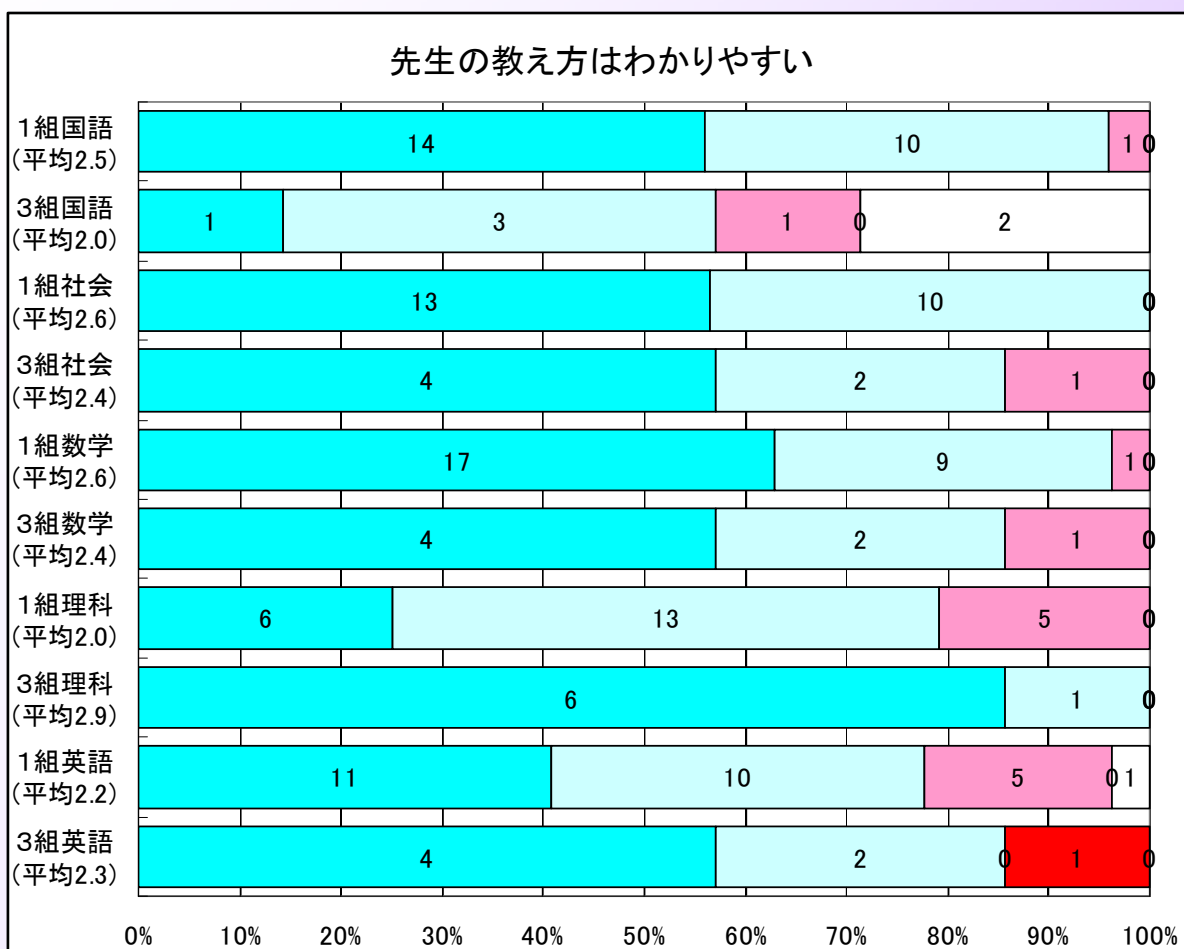
3 当てはまるものを選んでください。



### Ⅲ 「生徒授業アンケート」の分析

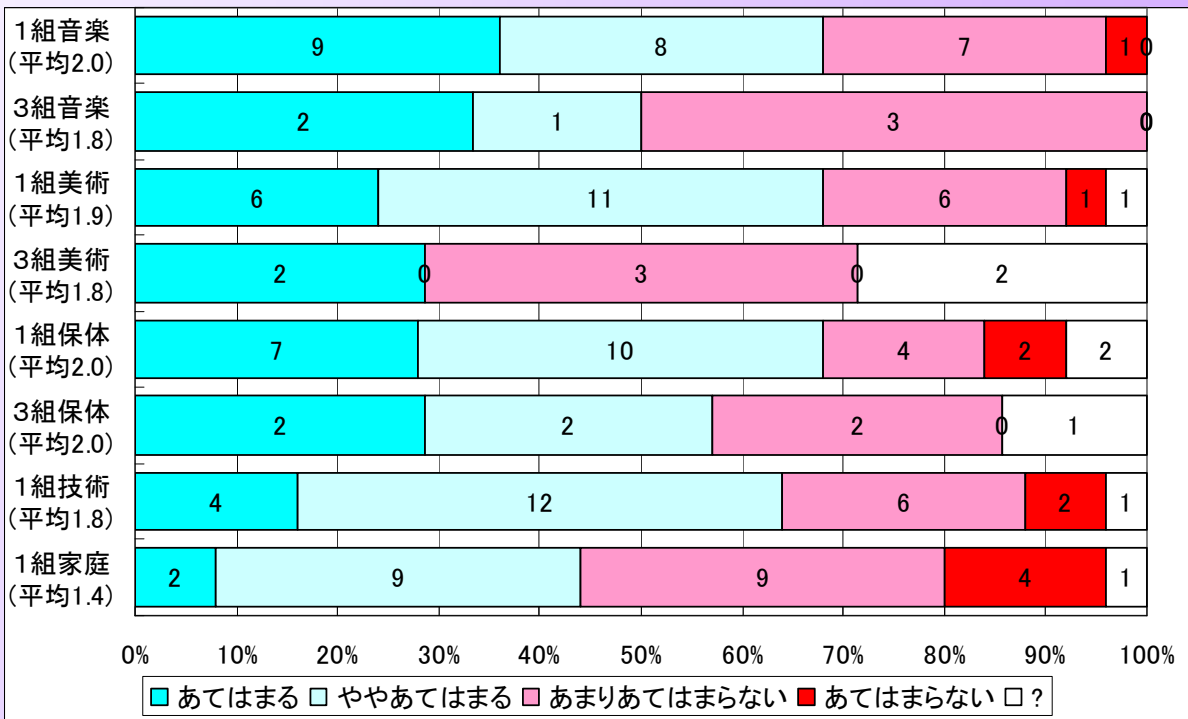
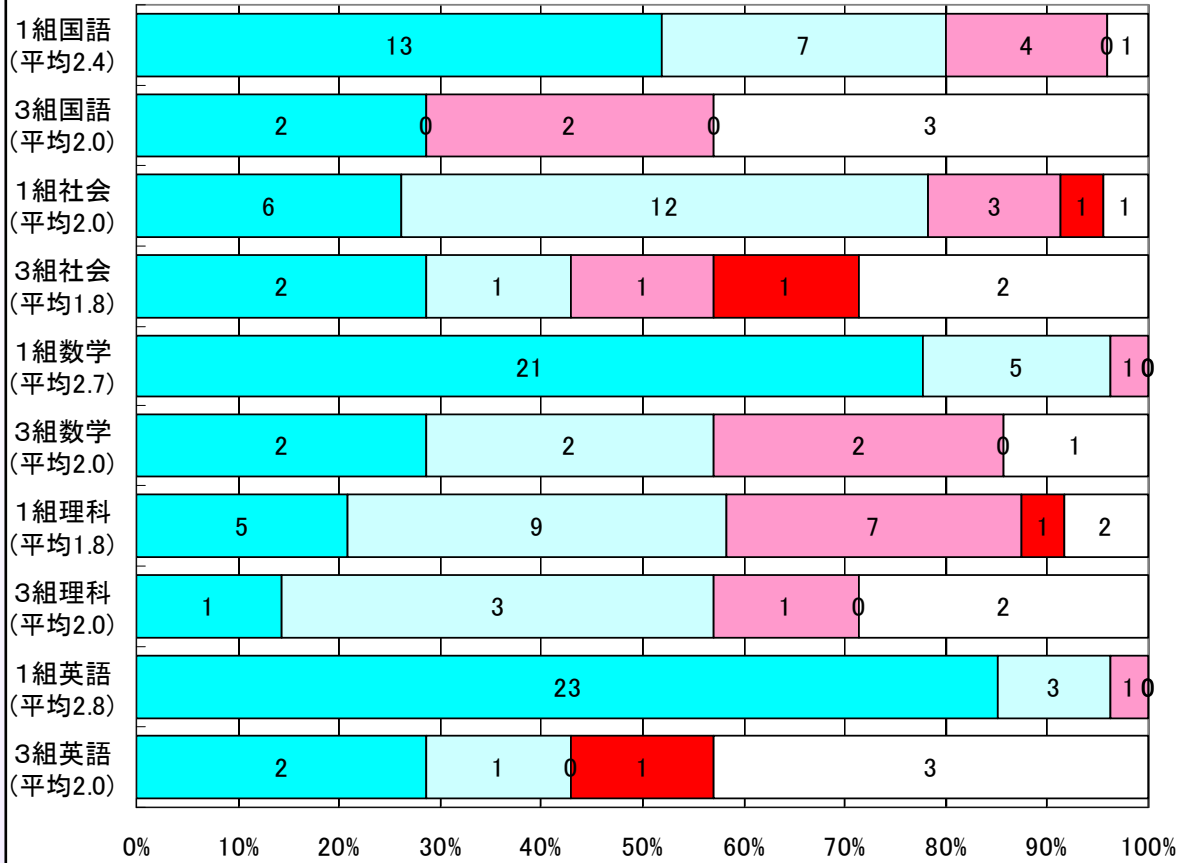


一部の教科を除いて、おおむね「楽しい」と感じている。気持ちは授業に向いていると言える。学力を定着させる工夫が必要である。



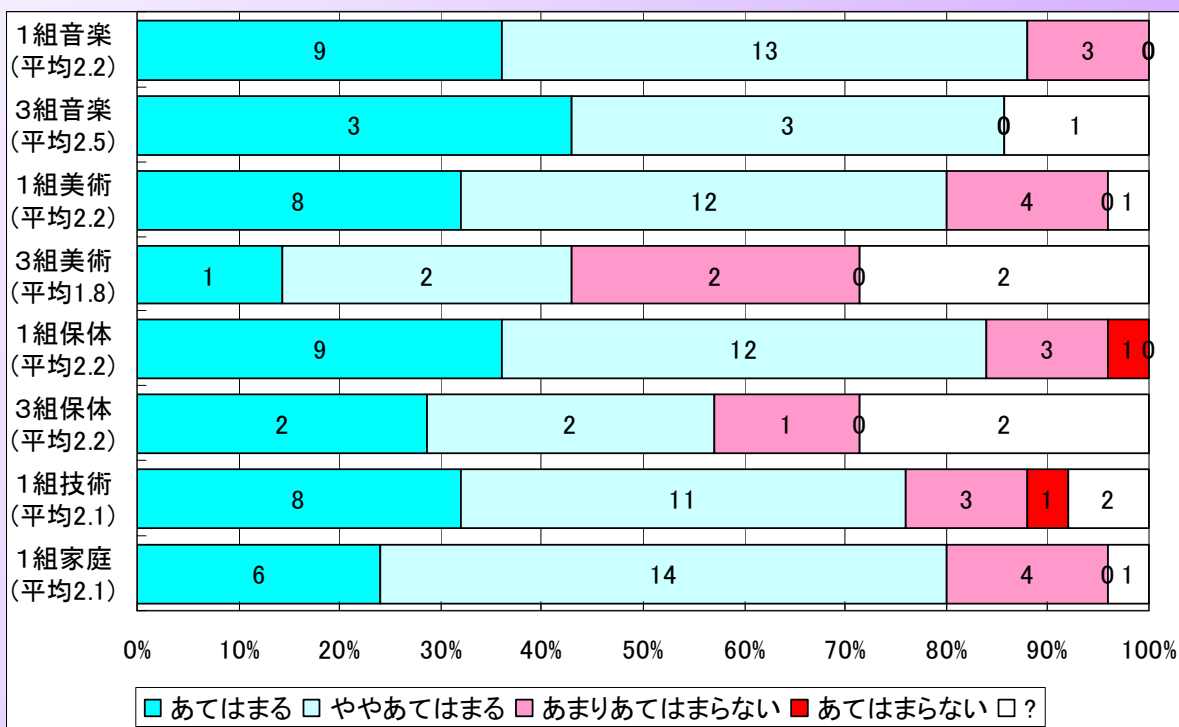
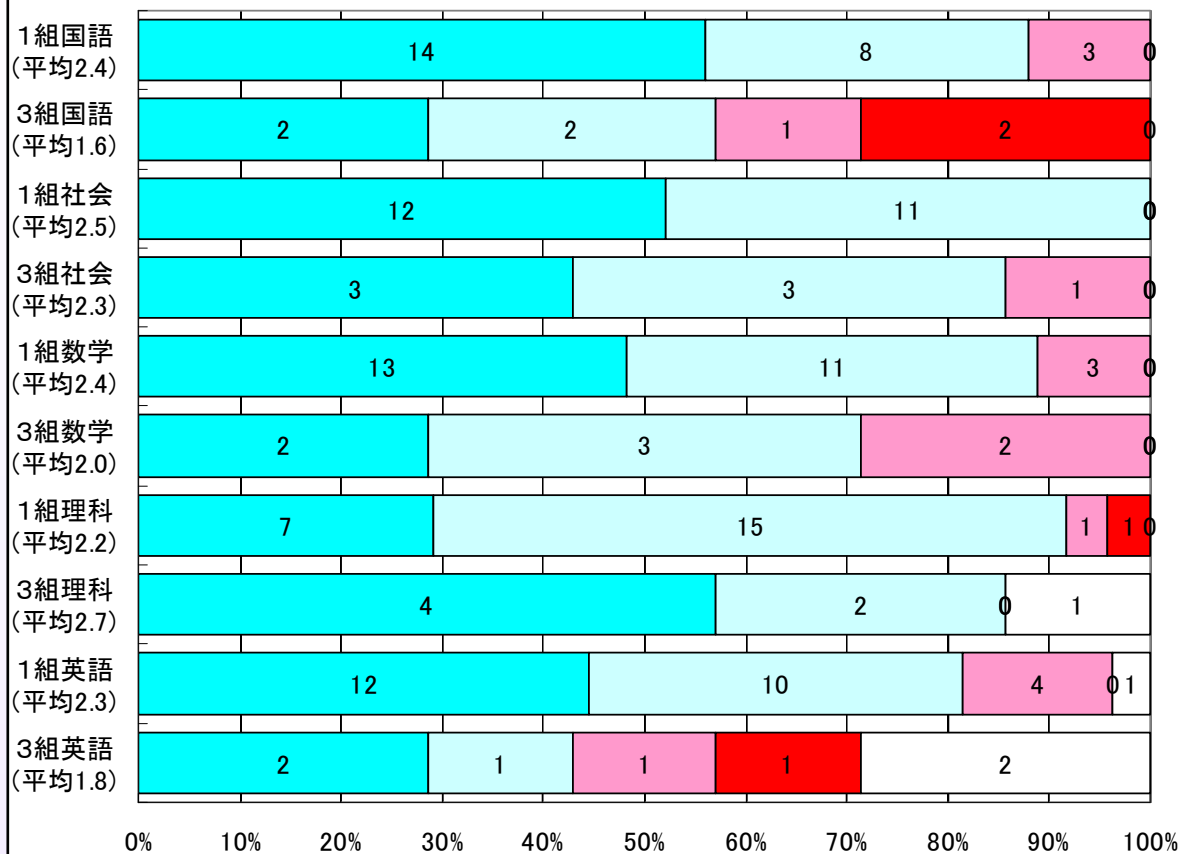
一部を除いて、おおむね「教え方はわかりやすい」と回答している。学力を定着させるための教え方の工夫・改善が必要である。

先生は、その授業の目標やめあてをわかりやすく示している



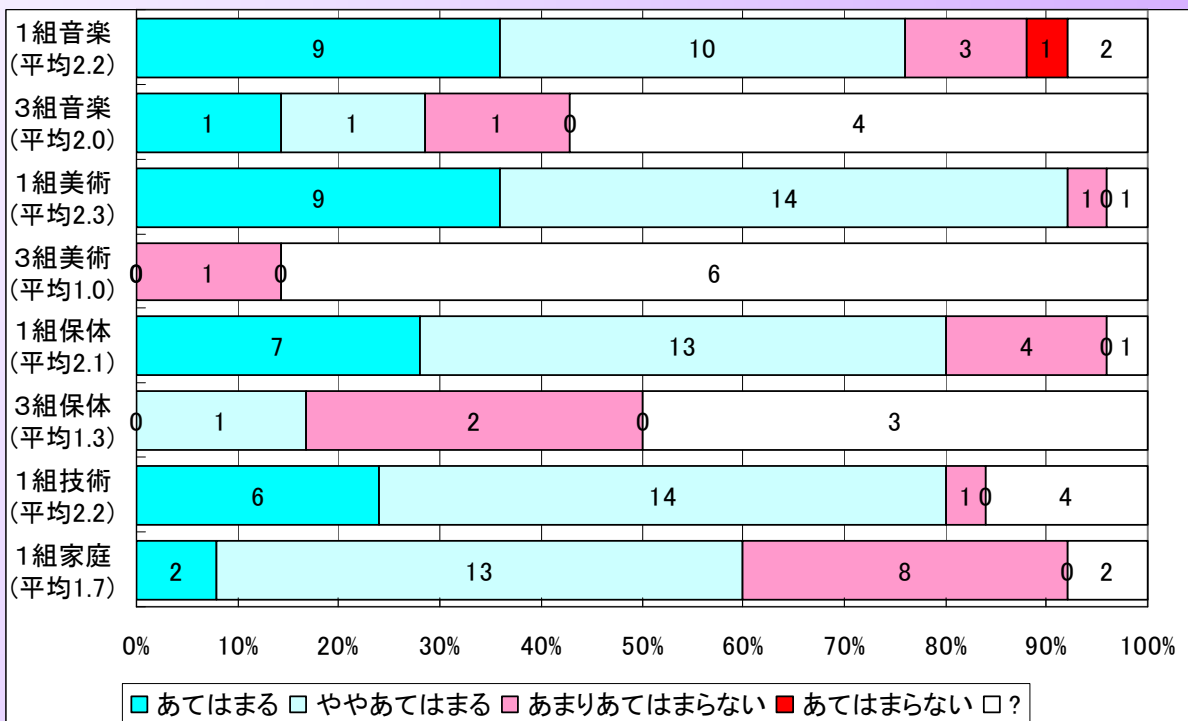
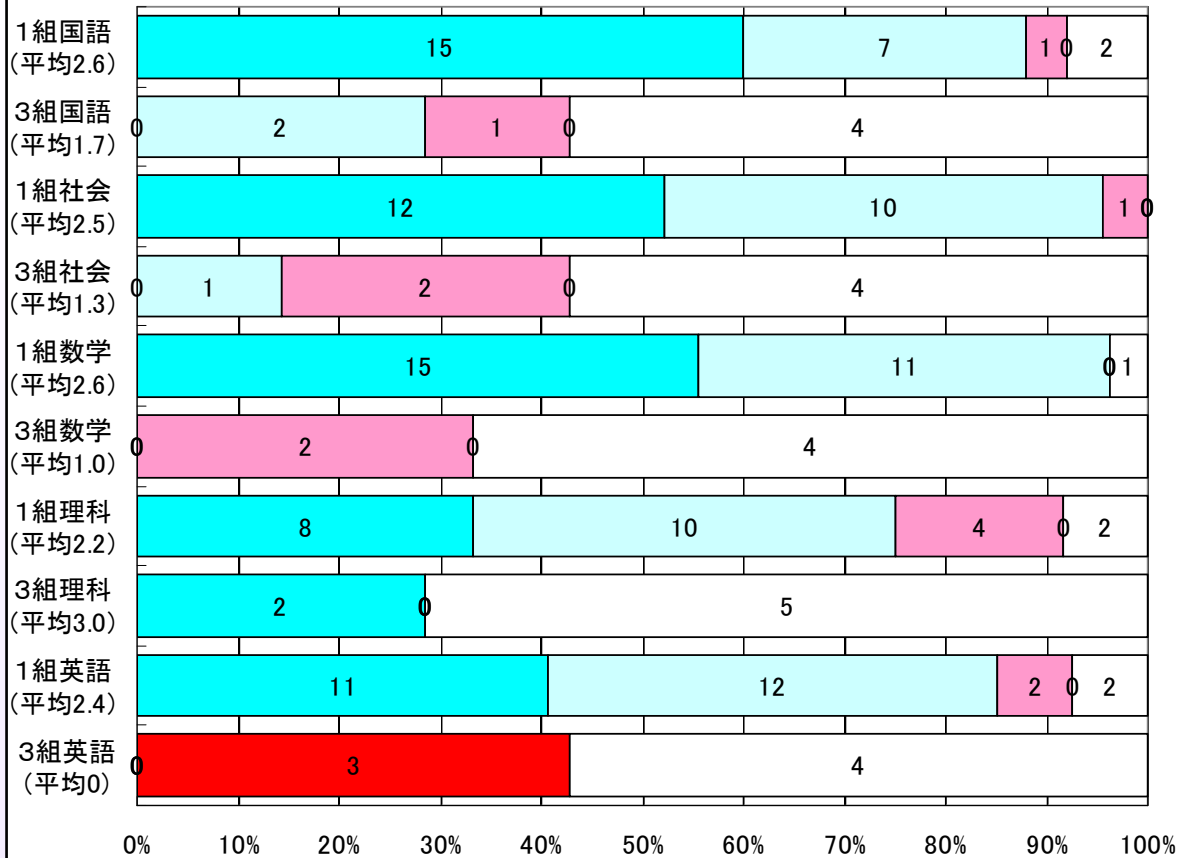
授業の目標やめあてが必ずしも生徒に伝わっていない。目標設定及び提示の仕方  
に工夫が必要である。

先生の授業の進め方の早さはちょうどよい



「早さはちょうどよい」と感じている生徒が多数である。中には、進度を心配して「もう少し早くてもよい」と考えている者もいる。

先生の説明と問題練習や作業とのバランスがちょうどよい



バランスがよいか否かを判断できない生徒も少なくない。定着させるためには、指導者が明確に説明し、生徒が自分で解いたり書いたり作ったりし、その知識や技能を活用することが必要であろう。学習と指導のバランスについて再検討してみたい。

## IV 学校全体の取り組み

### 1 授業改善推進プランの策定と活用

この授業改善推進プランを授業者が担当して作成し、実際に活用する。各教科任せのものにならないよう国や都の調査、授業アンケートの結果を分析し、学校全体の取り組みについても明確にする。

### 2 授業アンケートの実施

今年度は7月と12月に生徒による授業アンケートを実施し、この2回を比較することで授業改善の状況等を検証する。

### 3 授業力アップ週間の設定

週を決め、1人の教員の授業を全教員が参観し、週の終わりに学んだ点や改善点について協議を行う。教科の授業を行う正規の教員が7名いるので、7週に渡って、授業力アップ週間を設定する。

### 4 朝のモジュール学習の充実

朝の10分間のモジュール学習の方法を工夫し、基礎学力が定着するようにする。

### 5 放課後等の学習の場の設定

既に定期考査前や夏季休業中に実施しているが、今後も可能な限り場を設定し、生徒に参加を促していく。

### 6 家庭学習の働きかけ

家庭学習が少ないことが、学習に関する本校生徒の大きな課題である。放課後等に学習の場を設定するとともに保護者等に家庭学習の推進を働きかけ続けていく。

### 7 特別支援教育の推進

個に応じた指導を推進していく。そのため、他教科の教員も含め、情報の共有化を進め、授業支援を継続していく。

### 8 ねばり強さの醸成

書く問題は最初からやろうとしないなど、無解答率が高い。やってみると「できる」問題もあるはずである。学級活動や学校行事等も通して、「ねばり強さ」や「チャレンジ精神」を醸成していく。

V 各教科の授業改善推進プラン

1 国語科（2年）

|                 |  |
|-----------------|--|
| 今年度の教科目標        | 繰り返し指導により基礎的事項の定着を図る。  |
| 指導の重点項目         | 1 知識に関する事項の定着。<br>2 読む力を育てる。   |
| 教科としての生徒の実態     | 音読や朗読が好きで、また上手い。しかし、視力的な点からか思い込みで読んだり、とばし読みも目立つ。文章を読み取ることが不十分な点もある。漢字学習や書写（特に毛筆）に意欲的である。対話は常に行えるが、話し合うとか、人の意見を参考にして自分の考えを深めることが物理的にできないので、学期に複数回、3年との合同授業を行っている。   |
| 課題の分析           | 1 学習はしっかり行うが、復習不足から定着ができない。したがって、知識に関する事項の反復練習や小テストを定期的に行うことで定着を図ろうと考える。<br>2 自分の考えをもしっかりもっている良さはあるが、読み取りに関して自分の意見が優先してしまうことがある。部分的な表現にこだわらず、全体を通しての意見を把握するという視点で授業に臨もうと考える。   |
| 思考力・判断力が育つ工夫    | 他から学び、自分の考えを深めたり広げたりする機会がないので、特別な工夫が必要と考える。<br>質問し、それに答えるという形式の授業で進めやすいが、学期に1回は問題解決学習のような授業を取り入れ、自分で考える場を与えようとする。  |
| 言語活動を充実させるための工夫 | 教師との一対一の授業形態から考えて、教師の言葉、教師の話し方等は大変重要な意味をもっていると自覚し、授業に臨む。くだけた物言いの時も必要だが、場に応じた言葉を意識させようとする。生徒自身も、言葉遣いについてはかなり大切に考えているようであり、その思いに応えたいと思う。   |
| 具体的な授業改善策       | 1 知識に関する事項の定着。<br>①漢字学習を毎日の課題として提示する。<br>②語句の意味調べ等、主体的に取り組む習慣を育てる。<br>③詩歌、古典等の特別な知識についての理解を助ける補助教材を用意する。<br>④学習した知識に関する事項は可能な限り繰り返しの練習や小テスト等で定着を図る。<br>2 読む力を育てる。<br>①音読を重視した授業を行う。<br>②段落を意識させた取り組みを行う。<br>③主語・述語を意識して読む取り組みを行う。<br>④指示語、接続語を意識して読む取り組みを行う。<br>⑤具体例を通して筆者の意見を読み取る意識付けを行う。<br>⑥小説に関しては人物像・場面を意識させ、朗読を適宜取り入れながら、読む楽しさが実感できるようにする。 |

国語科（3年）

|                 |   |
|-----------------|---|
| 今年度の教科目標        | 言葉に関する意識を高め、国語を大切にしようとする気持ちを育てる。  |
| 指導の重点項目         | <ol style="list-style-type: none"> <li>1 読解力を育てる。</li> <li>2 書く力を育てる。</li> </ol>  |
| 教科としての生徒の実態     | 言葉を使って思いを述べることに抵抗感があり、進んで発表することがほとんどない。しかし、与えられた学習に対してはまじめに取り組む習慣はできている。  |
| 課題の分析           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業はおとなしくしているが、理解していなくてもそのままにしている生徒が多い。</li> <li>・課題の提出は3割の生徒が出さない。</li> <li>・学習内容が定着しない。</li> <li>・与えられた課題に真剣に取り組もうとする。</li> </ul>                            |
| 思考力・判断力が育つ工夫    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・問題解決学習のような形式を取り入れ、自分で考える機会を与える。</li> <li>・作文学習を重点的に行い、考えたり判断しなければならない状況を作り出す。</li> </ul>  |
| 言語活動を充実させるための工夫 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・話す言葉、話す速さ、問いかけの言葉等を指導者として意識して授業を進める。その繰り返しが生徒には必要だと考える。</li> <li>・3年生の生徒は話すこと、声を出すことに抵抗感を持っているように感じる。言葉を発することが少ないとしても、その機会にきちんとした声で意見を述べることを意識させる。</li> </ul> |
| 具体的な授業改善策       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・文章を読む際に、指示語・接続語・文末表現を意識した読みができるようにする。</li> <li>・語彙に関しては繰り返し練習を増やし、定着ができるようにする。</li> <li>・ステップを踏んで書く力が育つよう、目標を明確にした作文指導をする。</li> </ul>                         |

## 2 社会科（2年）

|                 |   |
|-----------------|---|
| 今年度の教科目標        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な社会的な現象に目を向ける。</li> <li>・基礎的な内容を身に付ける。</li> </ul>   |
| 指導の重点項目         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な知識を獲得させる。</li> <li>・資料を分析する方法を身に付けさせる。</li> <li>・社会的な思考力を養う。</li> </ul>   |
| 教科としての生徒の実態     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業に真面目に取り組む。作業的な内容には積極的に取り組める。</li> <li>・思考力を必要とする取り組みは身に付いていない。</li> </ul>   |
| 課題の分析           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料の内容を考察し、また、推察する能力が不十分である。</li> </ul>  |
| 思考力・判断力が育つ工夫    | 「なぜ?」「どうして?」の発問を多くし、自ら考える場面を増やす。  |
| 言語活動を充実させるための工夫 | 発問に対して、自分の考えをまとめて答えたり、調べた内容を発表する場を設定したりする。  |
| 具体的な授業改善策       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「簡単で的確な指示」を心がけ、身近な目標を意識させ授業に集中できるようにする。</li> <li>・身近な話題を取り入れることで、興味・関心を高めさせる。</li> <li>・具体的な事例を多く示しながら考える力を養う。</li> <li>・ワークシートを活用し知識の定着を図る。</li> </ul> |

## 社会科（3年）

|                 |   |
|-----------------|---|
| 今年度の教科目標        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な内容を身に付ける。</li> <li>・身近な社会的な事象に目を向ける。</li> </ul>   |
| 指導の重点項目         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な知識を獲得させる。</li> <li>・社会的な事象を身近なものとしてとらえ、社会的な思考力を養う。</li> </ul>   |
| 教科としての生徒の実態     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業に真面目に取り組む生徒が多いが、積極的に取り組む姿勢が見られない。</li> <li>・作業的な内容には熱心に取り組むが、資料を分析、推測し、思考する取り組みは身に付いていない。</li> </ul>                    |
| 課題の分析           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・知識理解に生徒の取り組みが偏っている。</li> <li>・社会的な事象を、身近なものとしてとらえ、社会的に思考する能力が不十分である。</li> </ul>   |
| 思考力・判断力が育つ工夫    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「なぜ?」「どうして?」の発問を多くし、自ら考える場面を増やす。</li> <li>・時事問題に関心を持たせ、自分の意見をもたせる。</li> </ul>   |
| 言語活動を充実させるための工夫 | <p>発問に対して、自分の考えをまとめて答えたり、調べた内容を発表する場を設定したりする。</p>   |
| 具体的な授業改善策       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「簡単で的確な指示」を心がけ、身近な目標を意識させ授業に集中できるようにする。</li> <li>・時事的な内容、具体的な事例を多く示しながら考える力を養う。</li> <li>・ワークシートを活用し、知識の定着を図る。</li> </ul> |

### 3 数学科 (2年)

|                 |  |
|-----------------|--|
| 今年度の教科目標        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な内容を定着させる。</li> <li>・身のまわりの事象を数学的にとらえたり、考察したりする。</li> </ul>   |
| 指導の重点項目         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・計算や方程式など、基本的な処理ができるようにする。</li> <li>・文章問題が解けるようにする。</li> </ul>  |
| 教科としての生徒の実態     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業に対する取り組みは意欲的で、1対1という授業の性質から理解もしやすい。</li> </ul>   |
| 課題の分析           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・計算は得意で理解も早いですが、文章題や数学的な表現が苦手である。</li> </ul>  |
| 思考力・判断力が育つ工夫    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・計算練習や一問一答の発問だけでなく、「なぜそうなるのか」の発問を増やしていく。</li> <li>・具体的な事象を取り上げ、数量の関係を考察する。</li> </ul>   |
| 言語活動を充実させるための工夫 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・数学的な表現を用いて論理的に説明する機会を設ける。</li> </ul>   |
| 具体的な授業改善策       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・小テストや問題集を利用して反復練習を行う。</li> <li>・分からない言葉は逐一確認するとともに、図などを利用して状況を整理していく力を付ける。</li> <li>・「どうしてそうなるのか」を大切にしたい授業を行い、既習事項を体系的に関係付ける。</li> </ul> |

## 数学科（3年）

|                 |   |
|-----------------|---|
| 今年度の教科目標        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な内容を定着させる。</li> <li>・身のまわりの事象を数学的にとらえたり、考察したりする。</li> </ul>  |
| 指導の重点項目         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・計算や方程式など、基本的な処理ができるようにする。</li> <li>・論理的な思考を積み上げて発展的な問題を解けるようにする。</li> </ul>   |
| 教科としての生徒の実態     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習意欲があり、授業に対して真剣に取り組んでいるが、積極的な発言などはあまりみられない。学力に大きな差ができている。</li> </ul>   |
| 課題の分析           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・分数や小数の計算ができない生徒がいる。</li> <li>・基本的な知識や技能の不足により思考が組み立てられない。</li> </ul>  |
| 思考力・判断力が育つ工夫    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・計算練習や一問一答の発問だけでなく、「なぜそうなるのか」の発問を増やしていく。</li> <li>・具体的な事象を取り上げ、数量の関係を考察する。</li> </ul>  |
| 言語活動を充実させるための工夫 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・数学的な表現を用いて論理的に説明する機会を設ける。</li> </ul>  |
| 具体的な授業改善策       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「簡単で的確な指示」を心がける。</li> <li>・朝学習や小テストで反復練習を行うとともに、特に支援が必要な生徒には補充的に指導を行う。</li> <li>・「どうしてそうなるのか」を大切にした授業を行い、既習事項を体系的に関係付ける。</li> </ul> |

## 4 理科（2年）

|                 |   |
|-----------------|---|
| 今年度の教科目標        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な自然現象に目を向ける。</li> <li>・基礎的な内容を身に付ける。</li> </ul>   |
| 指導の重点項目         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な理科的な知識を獲得させる。</li> <li>・観察実験の基礎的な方法を身に付けさせる。</li> <li>・科学的な思考力を養う。</li> </ul>   |
| 教科としての生徒の実態     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・作業や実験観察に積極的に取り組む姿勢が見られる。</li> <li>・科学的な思考力を必要とする取り組みは身に付いていない。</li> </ul>   |
| 課題の分析           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・知識理解に生徒の取り組みが偏り、データから法則性を導いたり推察する科学的思考な思考力が不十分である。</li> </ul>   |
| 思考力・判断力が育つ工夫    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・データから法則性を導いたり、考える実験の取り組み。</li> <li>・データから法則性を導いたり、考えるためのワークシートの充実。</li> </ul>   |
| 言語活動を充実させるための工夫 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・質問について文章で記述する活動の充実。</li> <li>・質問について整理して口頭で説明する活動の充実。</li> </ul>  |
| 具体的な授業改善策       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「簡単で的確な指示」を心がけ、身近な目標を意識させ授業に集中できるようにする。</li> <li>・身近な話題を取り入れることで、興味・関心を高めさせる。</li> <li>・実験、観察の機会を増やし、具体的な事例を多く示しながら考える力を養う。</li> <li>・ワークシートを活用し知識の定着および科学的な思考力の向上を図る。</li> </ul> |

## 理科（3年）

|                 |  |
|-----------------|--|
| 今年度の教科目標        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な自然現象に目を向ける。</li> <li>・基礎的な内容を身に付ける。</li> </ul>  |
| 指導の重点項目         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な理科的な知識を獲得させる。</li> <li>・観察実験の基礎的な方法を身に付けさせる。</li> <li>・科学的な思考力を養う。</li> </ul>  |
| 教科としての生徒の実態     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業に真面目に取り組む生徒が多いが、積極的に取り組む姿勢が見られない。</li> <li>・科学的な思考力を必要とする取り組みは身に付いていない。</li> </ul>   |
| 課題の分析           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・知識理解に生徒の取り組みが偏り、データから法則性を導いたり推察する科学的思考な思考力が不十分である。</li> </ul>  |
| 思考力・判断力が育つ工夫    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・データから法則性を導いたり、考える実験の取り組み。</li> <li>・データから法則性を導いたり、考えるためのワークシートの充実。</li> </ul>  |
| 言語活動を充実させるための工夫 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・質問について文章で記述する活動の充実。</li> <li>・質問について整理して口頭で説明する活動の充実。</li> </ul>   |
| 具体的な授業改善策       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「簡単で的確な指示」を心がけ、身近な目標を意識させ授業に集中できるようにする。</li> <li>・身近な話題を取り入れることで、興味・関心を高めさせる。</li> <li>・実験、観察の機会を増やし、具体的な事例を多く示しながら考える力を養う。</li> <li>・ワークシートを活用し、知識の定着および科学的な思考力の向上を図る。</li> </ul> |

## 5 英語科 (2年)

|                 |   |
|-----------------|---|
| 今年度の教科目標        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・英文を正しく音読できるようにする。</li> <li>・基本的な文法事項を身に付ける。</li> </ul>  |
| 指導の重点項目         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・単語の発音を身に付けた上で、イントネーションに注意して、相手に意味がよく伝わるように音読できるようにする。</li> <li>・既習事項と関連させて新出文法を学び、基本的な文法事項を体系的に身に付けることができるようにする。</li> </ul>   |
| 教科としての生徒の実態     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・音読に関しては、単語の発音は積極的に練習しているが、イントネーションにまで気を配ることができていない。</li> <li>・文法事項については、新出文法だけでも定着に不安が残り、既習事項は忘却しているものが多い。</li> </ul>   |
| 課題の分析           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・英文が発音できるということで満足している面があり、イントネーションの重要性をあまり感じていないため、身に付けようとする意識が低いものと思われる。</li> <li>・新出文法で手一杯という状況で、新出事項が既習事項と結びついているということをあまり考えていないものと思われる。</li> </ul>   |
| 思考力・判断力が育つ工夫    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・英文解釈の際に、指示語が指す内容や登場人物が言いたいことなどを読み取らせる問題を課している。</li> </ul>   |
| 言語活動を充実させるための工夫 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・既習のページを用いて、毎回音読を課している。</li> <li>・授業中に英語での対話を行うようにする。(現在は教員の英語を聞いて、生徒は日本語で答えることが多いため、生徒が英語で答えられるように工夫する。)</li> <li>・自分のことについて英語で表現する機会を多くもつ。</li> <li>・設問の文を音読させ、何が問われているのか正しく理解できるようにする。</li> </ul> |
| 具体的な授業改善策       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・英文解釈を通して「どの部分を強調して読めばよいか」というクイズを頻繁に出し、イントネーションに関心をもたせる。</li> <li>・現在行っている単語テストに文法事項をプラスし、既習文法を少しずつ復習していく。</li> <li>・新出文法の復習を、任意にせず宿題として課し、行ったかどうかを次の授業時に確認する。</li> </ul>                            |

## 英語科（3年）

|                 |  |
|-----------------|--|
| 今年度の教科目標        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本的な文法事項を身に付ける。</li> <li>・ 英文の読解力を身に付ける。</li> </ul>   |
| 指導の重点項目         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日々の授業の中で新出文法を確実に定着させる。既習事項はまとめて復習し、家庭学習で演習を重ねさせる。</li> <li>・ 大意の把握に主眼を置き、徐々に長い文章を読むことができるようにする。</li> </ul>  |
| 教科としての生徒の実態     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文法に関しては、積極的に学習する生徒が増えてきたが、意欲や学力の差が依然として存在する。</li> <li>・ 英文読解においては、意欲や学力の差がさらに激しく、全く手を付けられない生徒もいる。</li> </ul>  |
| 課題の分析           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学力差に対応できる教材の開発が必要である（2種類用意するなど）。</li> <li>・ 語彙（意味・スペル）の強化を図るため、単語テストに加えて、自分で英文を書く作業を多く取り入れる必要がある。</li> </ul>  |
| 思考力・判断力が育つ工夫    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教科書内容の読解において、指示語が指す内容や登場人物が言いたいことなどを読み取らせる問題を課している。</li> <li>・ 長文読解において、大意を考えながら読み進める練習を行う。</li> </ul>  |
| 言語活動を充実させるための工夫 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒同士の短い対話練習を行っている。</li> <li>・ 自分のことについて英語で表現する機会を多くもつ（英作文など）。</li> <li>・ 設問の文を音読させ、何が問われているのか正しく理解できるようにする。</li> </ul>  |
| 具体的な授業改善策       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文法演習において、自分で英文を書く作業を多くし、語彙（意味・スペル）の強化を図る。</li> <li>・ 演習問題を2種類用意するなどして、学力差に対応できるようにする。</li> <li>・ 電子黒板などのICT機器を用いて、長文読解演習の授業が、生徒にとって興味がわき、分かりやすいものになるように工夫する。</li> </ul> |

## 6 音楽科（2・3年）

|                        |   |
|------------------------|---|
| <p>今年度の教科目標</p>        | <p>①混声三部合唱を仕上げる。<br/>                 ②リコーダーのアンサンブルに取り組む。<br/>                 ③表現に主体的に取り組む。<br/>                 ④さまざまな音楽の成り立ちや歴史的背景を知り、その構成要素を感じ取って聴く。</p>  |
| <p>指導の重点項目</p>         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・歌詞の内容を理解し、情景を想像して歌い、さらに表現する力を育てる。</li> <li>・リコーダーのアンサンブルでは人と呼吸を合わせて演奏する楽しさを感じられるようにする。</li> <li>・音楽の背景にある歴史などについて理解を深めさせる。</li> </ul>                                 |
| <p>教科としての生徒の実態</p>     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・声を出すこと、表現することに対してあまり積極的ではない。</li> <li>・リコーダーはすぐに演奏ができる生徒と音階をたどるのがやっとの生徒との力の差が大きい。</li> </ul>  |
| <p>課題の分析</p>           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・声や表現がもっと表に出ることを目指す。</li> <li>・リコーダーでは個々が課題達成感をもてる課題の提示が必要である。</li> </ul>  |
| <p>思考力・判断力が育つ工夫</p>    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・合唱練習をパートリーダーなど生徒が主体となって活動することで思考力・判断力の向上を目指す。</li> </ul>  |
| <p>言語活動を充実させるための工夫</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・合唱や歌曲を歌う際、歌詞と音読し、その内容を理解した上で表現できるようにする。</li> <li>・カンツォーネを原語で歌うことにより他の国の言語も身近に感じられるようにする。</li> </ul>   |
| <p>具体的な授業改善策</p>       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・パートリーダー、指揮者、伴奏者を中心に合唱練習をすることで主体性を身に付ける。</li> <li>・生徒が声や音を出しやすく、表現しやすい環境作りをする。</li> <li>・曲の解説などは生徒にわかりやすい言葉選びを心がける。</li> <li>・生徒数や男女比に合わせて歌いやすいと思われる曲を選定する。</li> </ul> |

## 7 美術科（2年）

|                 |  |
|-----------------|--|
| 今年度の教科目標        | 素材の特長を理解した効果的なデザインを考え、それに適した制作技術を学び、作品完成の喜びを味わう。   |
| 指導の重点項目         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・デザインの大切さを理解させる。</li> <li>・デザイン、アイデアを具体化するために必要な技術を学ばせる。</li> </ul>   |
| 教科としての生徒の実態     | 真面目に制作できているが、集中力の続かない時や深く考えることが出来ないこともある。  |
| 課題の分析           | 素材の特長をとらえ切れていないことや、じっくりアイデアを練るのが苦手ですぐに満足してしまう時もある。   |
| 思考力・判断力が育つ工夫    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・良い作品の見本を見せて、どこに工夫があるのかを考えさせる。</li> <li>・制作において何が大切なのかを理解させた上でアイデアを練らす。</li> </ul>  |
| 言語活動を充実させるための工夫 | 個別指導なので、考えていることをよく聞き、話し合いの中でより良い方向性を見付けていく。レポート課題により自分の考えをまとめ、文章で表現する練習をさせる。   |
| 具体的な授業改善策       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・完成作品を観察させて、どこに工夫があるのかをよく考えさせる。</li> <li>・苦手部分の個別指導に時間を取り、必要に応じて実際にやってみせる。</li> <li>・創意工夫によりさらに完成度が高まることを認識させる。</li> <li>・良いところを認めて褒め、さらにやる気を出させる。</li> </ul> |

美術科（3年）

|                 |   |
|-----------------|---|
| 今年度の教科目標        | 素材の特長を理解した効果的なデザインを考え、それに適した制作技術を学び、作品完成の喜びを味わう。  |
| 指導の重点項目         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・デザインの大切さを理解させる。</li> <li>・デザイン、アイデアを具体化するために必要な技術を学ばせる。</li> </ul>  |
| 教科としての生徒の実態     | 全体的に熱心に制作できているが、集中力の続かない生徒や深く考えることが出来ない生徒もいる。   |
| 課題の分析           | 素材の特長をとらえ切れておらず、じっくりアイデアを練るのが苦手ですぐに満足してしまう。   |
| 思考力・判断力が育つ工夫    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・良い作品の見本を見せて、どこに工夫があるのかを考えさせる。</li> <li>・制作において何が大切なのかを理解させた上でアイデアを練らす。</li> </ul>   |
| 言語活動を充実させるための工夫 | 個別指導で各自の考えていることを聞き出し、話し合いの中でより良い方向性を見付けていく。レポート課題を通して自分の考えをまとめる練習をさせる。  |
| 具体的な授業改善策       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・完成作品を観察させて、どこに工夫があるのかをよく考えさせる。</li> <li>・苦手部分の個別指導に時間を取り、技術的ところは必要に応じて実際にやってみせる。</li> <li>・創意工夫によりさらに完成度が高まることを認識させる。</li> <li>・良いところを認めて褒め、さらにやる気を出させる。</li> </ul> |

8 保健体育科（2年）

|                        |  |
|------------------------|--|
| <p>今年度の教科目標</p>        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動、健康、安全について理解を求める。</li> <li>・求める生徒像「目標意識をもって取り組める生徒」</li> </ul>   |
| <p>指導の重点項目</p>         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・関心をもち運動の楽しさを味わうとともに技能を高め、知識を身に付けさせる。</li> </ul>  |
| <p>教科としての生徒の実態</p>     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・身体的に運動の種目が限られてしまう、更衣や活動場所まで単独で行動できない。</li> <li>・多くの支援を必要とする。</li> </ul>  |
| <p>課題の分析</p>           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自他を認め励まし合う環境作り。</li> </ul>   |
| <p>思考力・判断力が育つ工夫</p>    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動技能だけではなくスポーツのルールや特性などにも関心をもたせ、審判などにも積極的に出来るようにする。</li> </ul>   |
| <p>言語活動を充実させるための工夫</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・得意、不得意に限らず、教え合える場をつくり、励まし合えるようにする。</li> </ul>  |
| <p>具体的な授業改善策</p>       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動の特性を理解し、基礎体力を身に付け自分の限界に挑戦させる。</li> <li>・3年生との合同授業で、支援を受けながら自他を認め、毎時間ごとの目標に向かっての取り組みを定着させる。</li> <li>・保健分野等を中心に知識を身に付け、健康、安全についての理解を深めさせる。</li> </ul> |

## 保健体育科（3年）

|                 |   |
|-----------------|---|
| 今年度の教科目標        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動、健康、安全について理解を深める。</li> <li>・求める生徒像「目標意識をもって取り組める生徒」</li> </ul>  |
| 指導の重点項目         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・関心をもち、運動の楽しさを味わうとともに技能を高め、知識を身に付けさせる。</li> </ul>  |
| 教科としての生徒の実態     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動能力に差がある。</li> <li>・授業に対する取り組みにも差がある。</li> </ul>   |
| 課題の分析           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の能力を生かした授業が必要である。</li> <li>・少人数の男子の特性を生かし、球技種目の試合形式の工夫が今後の課題である。</li> </ul>   |
| 思考力・判断力が育つ工夫    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動の技能だけではなく、スポーツのルールや特性にも関心をもたせ審判なども積極的にできるようにする。</li> <li>・自分に合った練習方法を考えさせる。</li> </ul>  |
| 言語活動を充実させるための工夫 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・得意不得意に限らず、教え合える場を作り、励まし合えるようにする。</li> </ul>   |
| 具体的な授業改善策       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・2年生をサポートすることで、自己を知るようにさせる。</li> <li>・きめ細かく声かけし、指導ができるようにする。</li> <li>・種目、時間ごとの個人の目標を設定し、意欲、関心を高めるようにする。</li> <li>・体育祭前の陸上の授業を男女共修で行い、それぞれの特性を理解し励まし競い合わせる。</li> </ul> |

## 9 技術家庭科【技術】（2年）

|                 |  |
|-----------------|--|
| 今年度の教科目標        | 機器の仕組みを理解させ、点検ができるようにする（電気を含む）。  |
| 指導の重点項目         | 電気機器の仕組みを理解させ、資源の再利用について考えさせる。   |
| 教科としての生徒の実態     | 一対一の授業の中、十分にその内容を理解させることができると同時に作業の進度を生徒に合わせることに配慮している。  |
| 課題の分析           | ゼロから物を作り出すことの難しさを教材を通して知らせることができるか。  |
| 思考力・判断力が育つ工夫    | 工具の使い方を通して、作業を効率よく進める方法を教える。   |
| 言語活動を充実させるための工夫 | 実際の生活の中で利用されている物を題材として、生活に密着した指導を分かりやすく行う。   |
| 具体的な授業改善策       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教材の選定を工夫する。</li> <li>・生活の中での工夫ができるように主題を設定する。</li> <li>・研修成果を生かし、興味・関心を高める。</li> </ul> |

## 技術家庭科【技術】（3年）

|                 |  |
|-----------------|--|
| 今年度の教科目標        | 機器の仕組みを理解させ、点検ができるようにする（電気を含む）。  |
| 指導の重点項目         | 電気機器の仕組みを理解させ、資源の再利用について考えさせる。   |
| 教科としての生徒の実態     | 一般の学校より少人数のため、作業に十分な時間をかけられることから興味・関心は高い。  |
| 課題の分析           | ゼロから物を作り出すことの難しさを教材を通して知らせることができるか。  |
| 思考力・判断力が育つ工夫    | 工具の使い方を通して、作業を効率よく進める方法を教える。   |
| 言語活動を充実させるための工夫 | 実際の生活の中で利用されている物を題材として、生活に密着した指導分かりやすく行う。  |
| 具体的な授業改善策       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教材の選定を工夫する。</li> <li>・生活の中での工夫ができるように主題を設定する。</li> <li>・研修成果を生かし、興味・関心を高める。</li> </ul> |

## 10 技術家庭科【家庭】（2年）

|                 |  |
|-----------------|--|
| 今年度の教科目標        | 衣服の働きについて学び、日常生活で自立した衣生活を送れるようにする。   |
| 指導の重点項目         | 作業時間を充分に取り、できるだけ自分で取り組むようにさせる。   |
| 教科としての生徒の実態     | 1対1の授業なので、個人の進度に応じて進めることができる。質問も積極的にしている。  |
| 課題の分析           | 一人なので、つまづいているところがはっきりとわかる。   |
| 思考力・判断力が育つ工夫    | ミシン、手縫い作業を通して、既製品の衣服の見方や取り扱い方法を学ぶ中で、判断する力が育つような問いかけを多く取り入れる。   |
| 言語活動を充実させるための工夫 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人で考える場面と、一緒に考える場面を明確にする。</li> <li>・考えたことを発表する場を作る。</li> </ul>       |
| 具体的な授業改善策       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・衣服の材料や素材を見せて、衣服に興味をもつように進める。</li> <li>・作業ポイントをより丁寧に行っていく。</li> </ul> |

## 技術家庭科【家庭】（3年）

|                 |  |
|-----------------|--|
| 今年度の教科目標        | 成長について学び、幼児の頃の遊びの大切さを知る。   |
| 指導の重点項目         | 思考力を育てるため、各自が出すテーマ・アイデアを大切にし、それを生かして作品にさせる。  |
| 教科としての生徒の実態     | 丁寧にやる生徒と絵本の内容を決めることができなくて、作業を行えない生徒の二つに分かれている。   |
| 課題の分析           | 絵本作りという作業が難しすぎたようで、アイデアが出てこない。<br>思考力・工夫点を重視し、作業は友達とも相談できる形態で行ってきたが、話だけで終わってしまい、作業に取り組んでいない生徒が多くなってしまった。 |
| 思考力・判断力が育つ工夫    | 12ページ絵本のストーリー、クイズなど幼児が興味をもちそうなものを調べ、まとめて作品を仕上げていく。<br>アイデアを練ることの必要性を理解させる。                               |
| 言語活動を充実させるための工夫 | 意見を交換できるように班や席を変えて行う。  |
| 具体的な授業改善策       | 今後の作業は各自で行わせ、集中して作業に取り組めるように進めていく。   |